民博通信一覧

発行年月	号数	タイトル	執筆者
1977年10月	1	『民博通信』の創刊	梅棹 忠夫
		餘皇	山本 達郎
		辺境論	山田 信夫
		アメリカ'77－考現学的観察	祖父江 孝男
		ソ連の民族学者セルゲイ・トルストフの死	加藤 九祚
		人類学の数理化・計量化	小山 修三
		コンピュータと民族学	杉田 繁治
		日本における民族音楽－そのありかたをめぐって	櫻井 哲男
		「東亜半月弧」について	飯沼 二郎
		飯沼氏のコメントに寄せて－リプライ	中尾 佐助
		木村重信『人間にとって芸術とはなにか』	垂水 稔
		加藤九祚『天の蛇－ニコライ・ネフスキーの生涯』	中牧 弘允
		江口一久『フルベ族とわたし』	藤井 龍彦
		谷泰『牧夫フランチェスコの一日－イタリア中部山村生活誌』	泉 幽香
		西アジアにおける文化変容－民族と音楽	高橋 昭弘
		民族学におけるコンピュータ利用	栗田 靖之
		ラテン・アメリカの文化変容	大給 近達
		ハワイ便り	中山 和芳
		ヤオ族の二つの起源神話	竹村 卓二
		民家研究	杉本 尚次
		フィールド・距離・言葉	黒田 悦子
		ジャワ農村の二つの社会的空間	関本 照夫
		ハヌヌー・マンギャン文化の研究	宮本 勝
1978年6月	2	館員刊行物一覧の意義と方法	梅棹 忠夫
		伊藤幹治・米山俊直編著『柳田国男の世界』	端 信行
		祖父江孝男『文化人類学のすすめ－行動する人間	松山 利夫
		梅棹忠夫・吉良竜夫編著『生態学入門』	小山 修三
		米山俊直『ザイール・ノート』	黒田 悦子
		梅棹忠夫ほか『社会と文化－世界の民族』	秋道 智彌

民博通信一覧

発行年月	号数	タイトル	執筆者
		新しい国つくりの苦心	祖父江 孝男
		新しい文法－人類学的記述の正確さをもとめて	岩田 慶治
		民博とビデオテークのこと	蒲生 正男
		グランドキャニオンとイエローストーン	長尾 真
		第三の英語－国際英語の未来	和田 祐一
		いつか再びフィールドで－マッケナン博士のこと	小谷 凱宣
		象徴、意志、流れ－ターナー教授の眼	中牧 弘允
		マングローブ地帯における適応	秋道 智彌
		梅棹・小松・谷・石毛『新日本人のこころ』	大森 康宏
		梅棹忠夫『狩猟と遊牧の世界』	小川 了
		石毛直道『食卓の文化誌』	山本 順人
		北・中央アジア民族誌の基本文献についての基礎論査	大塚 和義
1978年9月	3	黒アフリカにおける物質文化の比較研究	端 信行
		有用植物の民族植物学的・辞書的研究	吉田 集而
		ペルー国リマ市天野博物館所蔵品の整理研究	藤井 龍彦
		ハルマヘラ島の民族誌的研究	石毛 直道
		ペルー便り	山本 紀夫
		ミシガン便り	杉村 棟
		パイワン族の首長制再考	松澤 員子
		バラノファジー研究	松山 利夫
		ゴンドル・ラチ	友枝 啓泰
		相対的方位について	吉田 集而
		日本列島におけるカゴ細工の系統的研究	中村 俊亀智
		HRAFファイルの発展とその意義	福川 圭子

民博通信一覧

発行年月	号数	タイトル	執筆者
1979年3月	4	開館一年－民博の内と外	佐々木 高明
		農耕民族不死不老論覚書（其一）	江上 波夫
		MountainRoad（1）	白鳥 芳郎
		雪の民具と稲の民具	中村 俊亀智
		県民性「おおらか」と「のんびり」	和田 正平
		祖父江・米山・野口『文化人類学事典』	守屋 毅
		江口一久『アフリカ最後の裸族－ヒデ族と暮した一〇〇日』	大胡 修
		梅棹他『民話と伝承』	杉田 繁治
		杉本尚次『九州地方の民家』『地域と民家－日本とその周辺』	垂水 稔
		守屋毅『愛媛県の祭りと民俗』	高取 正男
		華南における少数民族の伝承に関する基礎資料の調査および蒐集と分類	新島 翠
		共同研究班「東南アジアにおける慣習法の研究」の活動について	石井 米雄
		コンピュータによるタイ語古代法典（三印法典）の総辞索引作成	杉田 繁治
		カフカスだより	加藤 九祚
		インドネシアだより	関本 照夫
		フランスにて	小川 了
		カヌーと伝説	須藤 健一
		アマゴとヤマメ	秋道 智彌
		コンピュータによる画像処理	八村 廣三郎
		オセアニア芸術国際シンポジウム	石森 秀三

民博通信一覧

発行年月	号数	タイトル	執筆者
1979年9月	5	二つの「ミンゾク」学の交流史	伊藤 幹治
		MountainRoad（2）	白鳥 芳郎
		声帯模写フォノロジー－言語接触における諸様相	馬淵 東一
		ソ連の民族学者セルゲイ・トカレフ博士の八〇歳を祝って	加藤 九祚
		錦をめぐるふたつの民話－壮族と瑤族の場合	君島 久子
		フィールド・ワークと現地食主義	山本 紀夫
		祖父江孝男『文化とパーソナリティー』	藤岡 喜愛
		増田義郎『インディオ文明の興亡－世界の歴史7』	福井 勝義
		石毛直道編『環境と文化－人類学的考察』	杉本 尚次
		藤井知昭『「音楽」以前』	宮本 勝
		守屋毅編『明治大正図誌11巻大阪』	櫻井 哲男
		「日本社会における贈答の数量統計学的研究」について	栗田 靖之
		心理人類学の理論的研究	祖父江 孝男
		器班記	中村 俊亀智
		パラオだより	秋道 智彌
		ラオベ・フルベ・ワンバーベ	小川 了
		「手の概念」からリズムへ	野村 雅一
		東アフリカ牧畜民の調査から	田中 二郎
		民族服と私	松本 敏子
		カナダ民族学大会にて	煎本 孝

民博通信一覧

発行年月	号数	タイトル	執筆者
1979年11月	6	民族学者セロシェフスキーの日本観	加藤 九祚
		台湾南部平埔族の壷神追跡記	國分 直一
		幻想動物の胎生学	松井 健
		市場と精霊	関本 照夫
		未来の展示をつくる	石毛 直道
		加藤九祚「中央アジア遺跡の旅」	中村 俊亀智
		梅棹忠夫編「民博誕生－館長対談」	森田 恒之
		茶の文化に関する総合的研究	守屋 毅
		土着主義的宗教運動の基礎的研究	中牧 弘允
		牧畜社会の特質をめぐって－共同研究「牧畜社会の比較研究」班の活動	福井 勝義
		ハワイだより	中山 和芳
		南米だより	友枝 啓泰
		古代インドのシュラウタ祭式研究メモ	井狩 彌介
		アンデス栽培植物の神話的起源	友枝 啓泰
		「にかわ」をめぐって	森田 恒之
		物の文化史の方法	大丸 弘
		小山数学教室始末記－私本・コンピュータ民族学事始め	端 信行
1980年1月	7	故牧野巽博士の民族学的業績と＜牧野文庫＞	竹村 卓二
		中東シンポジウムのことなど	杉村 棟
		インカの鉄	藤井 龍彦
		パターン認識と民族学	八村 廣三郎
		FukuiandTurton(eds.), WarfareamongEastAfricanHerders, Senri EthnologicalStudiesNo. 3	小川 了
		岩田慶治『カミの人類学－不思議の場所をめぐって』	垂水 稔
		日本在来の労働衣服の比較研究	中村 俊亀智
		日本における作物栽培技術の成立と展開	松山 利夫
		中世南インドのカースト・「ギルド」・地域社会－「職業の成立とその分化についての比較研究」から	重松 伸司
		木曜島・ダル島だより	杉本 尚次
		インドネシアだより	櫻井 哲男
		アメリカにおける東洋系宗教の受容	中牧 弘允
		スラヴ文化の基層を求めて	伊東 一郎
		ルオンゴ・コレクションの民族学標本資料	小谷 凱宣

民博通信一覧

発行年月	号数	タイトル	執筆者
1980年3月	8	中国における資料収集と調査－中国の旅から帰って	佐々木 高明
		訪中スケッチ（1）－雲南の少数民族とその研究	君島 久子
		普遍性と相対性	吉田 集而
		異文化の理解をめぐって－ハワイ大学での日本文化の授業から	中山 和芳
		エドワード・T・ホール『文化を超えて』	栗田 靖之
		伊藤寿朗・森田恒之編著『博物館概論』	宇野 文男
		タオスの人々	黒田 悦子
		インドだより	吉本 忍
		キャンベラ八月二十日記	小山 修三
		韓国のドングリのmug	松山 利夫
		道ばたからみたモロッコ	江口 一久
1980年7月	9	オランダ一九七九	和田 祐一
		訪中スケッチ（二）－「阿詩瑪」のふるさと	君島 久子
		客家山歌をめぐって	周 達生
		祖父江孝男『文化人類学入門』	米山 俊直
		守屋毅『京の芸能－王朝から維新まで』	野村 雅一
		西アフリカのエスノ・テクノロジーに関する比較研究	和田 正平
		「華南に於ける少数民族の伝承に関する基礎資料の調査および蒐集と分類」と「民間説話の比較研究」との合同研究	渡辺 弥栄子
		パリの日本人たち	大森 康宏
		ロンドンだより	大丸 弘
		ホノルルの歳末・一九七九	中山 和芳
		地域としてのチベット	長野 泰彦
		オーストロネシア民族と魚	崎山 理
		アメリカの医療人類学	吉田 集而

民博通信一覧

発行年月	号数	タイトル	執筆者
1980年10月	10	天人女房譚再考	坪井 洋文
		一二〇バーツの＜三印法典＞	石井 米雄
		博物館の国際協力	福井 勝義
		博物館展示について－物と人との関係という視点から	煎本 孝
		加藤九祚著『シベリア記』	伊東 一郎
		藤井知昭著『民族音楽の旅－音楽人類学の視点から』	櫻井 哲男
		中央カロリン諸島における伝統的航海術の民族学的研究	石森 秀三
		人類学における映像および視覚表現に関する方法論	大森 康宏
		ロンドンだより	田邊 繁治
		台北の博物館をめぐって	松澤 員子
		台湾だより	大胡 修
		フィンランドの東と西の文化圏	庄司 博史
		民衆イスラームの社会人類学的考察にむけて	大塚 和夫
		音楽データ・ベースの研究	山本 順人
		資源システムと発展途上国における地域変容	ケネス・ラドル著、中山・秋道共訳
		オランダ・インドネシア共同研究計画（PIS）について	吉田 集而
1980年12月	11	クロッペンブルグ野外博物館訪問記	関 敬吾
		入墨二話	石川 栄吉
		アレウト族の民族誌に関する二つの文献	加藤 九祚
		開発プロジェクトと文化人類学－バングラデシュ旅のメモ	松澤 員子
		中国の住宅事情による味の変化	周 達生
		祖父江孝男編『日本人の構造』	栗田 靖之
		デンマーク国立博物館をたずねて	小谷 凱宣
		ギリシアだより	野村 雅一
		フィンランドだより	庄司 博史
		てるてる坊主と日和見	宮田 登
		藁細工の形態学	中村 俊亀智
		言語情報処理に関する基礎的研究	杉田 繁治
		『辺茶』考－西南中国の旅から	守屋 毅
		第二四回国際地理学会議	杉本 尚次

民博通信一覧

発行年月	号数	タイトル	執筆者
1981年3月	12	チンチェロ再訪－その一	佐藤 信行
		カラコルムの歌－ラダックからの手紙	藤井 知昭
		異文化を見つめるグッドイナフ博士の横顔－京都・奈良の見学に同伴して	松澤 員子
		文字社会における読み書き能力	大塚 和夫
		安田喜憲著『環境考古学事始』	松谷 暁子
		石毛直道著『食いしん坊の民族学』	周 達生
		アジアにおけるシャーマニズムの比較研究	加藤 九祚
		古代農耕の分析手法をめぐる報告と討論の紹介－共同研究「日本における作物栽培技術の成立と展開」から	松山 利夫
		ネパール便り①	長野 泰彦
		ネパール便り②	長野 泰彦
		東欧だより	伊東 一郎
		北ハルマヘラ基礎語彙の比較研究によるガレラ語子音の特質の研究	和田 祐一
		アンデスの踏鋤をめぐって	山本 紀夫
		ペルー人類学の現状	友枝 啓泰
1981年6月	13	民博の若い学者に望む	桑原 武夫
		漢語「遊牧」と満州語その他のアルタイ諸語	池上 二良
		周達生著『中国民族誌－雲南からゴビへ』	長谷川 清
		中村たかを著『日本の民具』	坪郷 英彦
		李星華編著・君島久子訳『白族民間故事伝説集－中国少数民族の昔話』	栗原 悟
		日本民族文化の源流の比較研究シンポジウムⅡシャマニズム	長野 泰彦
		接着・接合技術に関する比較民族研究	森田 恒之
		アメリカだより	守屋 毅
		セレルトラからクレアへ－カメルーン－	端 信行
		ネパール便り③	長野 泰彦
		ミクロネシアのポナペ島だより	中山 和芳
		羊への呼びかけ	谷 泰
		夜間放牧	松原 正毅
		マヤ学事始	八杉 佳穂
		中央アジアにおける身体部分による暦	加藤 九祚

民博通信一覧

発行年月	号数	タイトル	執筆者
1981年9月	14	中国西南部のいくつかの異なる類型の民族	林 耀華
		鏡と世界観	岩田 慶治
		アメリカ便り第二便	守屋 毅
		スリランカの海辺から	井狩 彌介
		ミスル便り	大塚 和夫
		バーディヤにみるトランスナショナリズム	片倉 もとこ
		研究の谷間から	重松 真由美
		ハルマヘラとラジャ・アンパット諸島に関するゼミナール	吉田 集而
		ランドサット人工衛星写真	八村 廣三郎
1981年12月	15	足踏包丁と胸突包丁	中尾 佐助
		『中国少数民族』を読んで	佐口 透
		神々の集会と人間の結婚	大林 太良
		彫像家エドワード・S・アコティア	江口 一久
		“守屋毅著『お茶のきた道』”がきた道	林 左馬衛
		北川甫編『世界の言語』講座言語第六巻	長野 泰彦
		日本および周辺地域諸民族住居の比較研究	杉本 尚次
		「文字使用の起源と展開」研究班	江口 一久
		ガーナ便り－城を訪ねて	和田 正平
		ミクロネシアのポナペ島だより	中山 和芳
		民間説話における沖縄、韓国、日本本土の比較	丸山 顯徳
1982年3月	16	人文科学研究におけるコンピュータ利用	梅棹 忠夫・佐々木 高明・中山 和彦・杉田 繁治
		パプア・ニューギニアのワニ養殖事業	大島 襄二
		照葉樹林帯の住いと器－ハンギング・ウォールと漆器のことなど	佐々木 高明
		貨幣論と無文字社会	端 信行
		ル・クレジオ原訳・序、望月芳郎訳『マヤ神話－チラム・バラムの予言』	八杉 佳穂
		「集団の編成と統合」に関する共同研究	福井 勝義
		中国道の日記（抄）	松山 利夫
		東部ネパールの村から	吉田 集而
		『鍬之図鑑』	中村 俊亀智

民博通信一覧

発行年月	号数	タイトル	執筆者
1982年6月	17	三保公魚	伊地 智善継
		L' Europeetsespopulations, MartinusNijhoff, LaHaye, 1978.	築島 謙三
		畲　族「祖図」との出会い	君島 久子
		TakashiIrimoto, ChipewyanEcology－GroupStructureandCaribou HuntingSystem. SenriEthnologicalStudiesNo. 8	岡田 宏明
		端信行著『サバンナの農民』	安渓 遊地
		西田龍雄編『世界の文字』講座言語第五巻	八杉 佳穂
		日本民族文化の源流の比較研究シンポジウムⅢ音楽と芸能	櫻井 哲男
		西アフリカのエスノ・テクノロジーに関する比較研究	森 淳
		ヤオ族における漢字＜中古音＞の残存	竹村 卓二
		インドにおける聖典の書写と口承	中谷 英明
		植民地化と言語政策、そして文字－ザイールの場合	梶 茂樹
		青木文教師将来チベット文物の研究	長野 泰彦
		ミクロネシア・ポナペ島における社会変化	中山 和芳
		パプア・ニューギニアにおける育児・栄養調査をめぐって	秋道 智彌
1982年10月	18	中国民間文学研究事業の進展と現状	賈 芝
		民間文学と民族学・言語学の関係	馬 学良
		最近の中国民俗学の発展状況について	王 汝瀾
		意味変化についての覚書	崎山 理
		UCBにおける服装の考現学	吉田 集而
		木村重信著『ヴィーナス以前』	杉田 繁治
		八杉佳穂著『マヤ文字を解く』	藤井 龍彦
		君島久子訳『アジアの民話』	古谷 久美子
		現代スワヒリ語の性格－標準語の創造	宮本 正興
		朝鮮の印刷文化	藤本 幸夫
		バリ島の空から	吉本 忍
		アメリカ雑感	大胡 修
		民俗と風俗	井上 忠司
		MCDシソーラスをめぐって	大丸 弘
		チベット文字雑考	長野 泰彦

民博通信一覧

発行年月	号数	タイトル	執筆者
1983年1月	19	相手の身になる	川喜田 二郎
		私の趙元任教授	伊地 智善継
		木曜島の慰霊塔－日豪交流百年記念	杉本 尚次
		近世献立における汁、吸い物とすまし	平田 萬里遠
		続ミスル便り	大塚 和夫
		断食月のアラビアより（上）	片倉 もとこ
		焼畑農耕の考古学的実証法について	小谷 凱宣
		ニュー・イングランドの歴史公園	守屋 毅
		クロニカ資料のKWIC検索－インカ時代のコカ利用の民族誌的記述のために	友枝 啓泰・藤井 龍彦
		中国における最近の出版物中にみられる華南少数民族研究の動向（一）－共同研究「華南における少数民族の伝承に関する基礎資料の蒐集と分類」	長谷川 清・栗原 悟
1983年3月	20	宇野円空論拾遺	伊藤 幹治
		ソノラ砂漠の水争い	小谷 凱宣
		竹村卓二著『ヤオ族の歴史と文化－華南・東南アジア山地民族の社会人類学的研究』	渡邊 欣雄
		杉本尚次著『西サモアと日本人酋長－村落調査記一九六五－一九八〇』	須藤 健一
		神のトポロジー	岩田 慶治
		マイクロコンピュータによる朝鮮語の自動構文解析試案	油谷 幸利
		プラント・オパール分析による焼畑山地の調査	藤原 宏志・杉山 真二
		断食月のアラビアより（下）	片倉 もとこ
		MCDシソーラスをめぐって（2）－民博衣服標本データの入力	大丸 弘
		中国における最近の出版物中にみられる華南少数民族研究の動向（二）－共同研究「華南における少数民族の伝承に関する基礎資料の収集と分類」	渡辺 弥栄子・新島 翠

民博通信一覧

発行年月	号数	タイトル	執筆者
		傣族詩歌の特徴について	王 松
		タイのヤオ族と中国のヤオ族との交歓のために	竹村 卓二
		京の茶漬とエジプトの午餐	大塚 和夫
		“インディアン郡”創設の動き	小谷 凱宣
		グンデルの共鳴パイプ模造余話	森田 恒之
		佐々木高明著『照葉樹林文化の道－ブータン・雲南から日本へ』	高橋 徹
		森の文化の断絶－松山利夫著『木の実』を読んで	安田 喜憲
1983年7月	21	高田公理著『酒場の社会学』	黒田 悦子
		「日本民族文化の源流の比較研究」シンポジウムⅣすまい	杉本 尚次
		「現代日本文化における伝統と変容」シンポジウム暮らしの美意識	杉田 繁治
		インド文明と文字の不使用	徳永 宗雄
		済州島の春	櫻井 哲男
		トーゴ北部フルベ族の献立	江口 一久
		民族誌映画に関するパリ映画祭	大森 康宏
		ワープロ元年顛末記	和田 祐一
		マイクロ・コーダー追悼記－西ケニアの調査に倒れたマシーンたち	長島 信弘
		「マッケナン資料」のこと	小谷 凱宣
		「主体性の文化人類学」	福井 勝義
		煎本孝著『カナダ・インディアンの世界から』	大林 太良
		伊藤幹治著『家族国家間の人類学』	孝本 貢
		野村雅一著『しぐさの世界－身体表現の民族学』	掛谷 誠
1983年11月	22	民族芸術学の基本的問題－共同研究「民族芸術的世界の構造」から	木村 重信
		ミクロネシアの民族文化のエスノヒストリーの研究	須藤 健一
		「中国少数民族の文字使用の概況」	胡 起望
		分りやすい文化	栗田 靖之
		関数型プログラムの効率的実行機構について	久保 正敏
		ガンヴィエの湖上集落を訪ねて	和田 正平
		最近のミンドロ島調査メモから－ある殺人事件をめぐって	宮本 勝

民博通信一覧

発行年月	号数	タイトル	執筆者
1984年2月	23	「日本人の生活と意識における連続性と変化」	祖父江 孝男
		民博招聘から帰って	王 松興
		「行きどころがない」…ホピ＝ナバホの土地問題について	小谷 凱宣
		杉本尚次著『フィールドワークの方法』	池野 茂
		和田正平採録・編訳『イラクの昔話』	小川 了
		畑中幸子著『ニューギニア高地社会－チンブー人よ、いずこへ』	中山 和芳
		ハングル文字の創制について	鄭 光
		表現様式の変容と展開をめぐって	鈴木 道子
		中国におけるチベット文字の使用	索 文清
		「儀礼－文化の形式的行動の研究」	黒田 悦子
		古代ギリシアにおける文字使用	小川 正広
		韓国民家の旅	杉本 尚次
		南西諸島の「低い島」とイネ栽培	小林 茂
		ゴルソン教授の日本滞在日記－民族学における豪日学術交流プロジェクトの成果	小山 修三
1984年3月	24	民博での一〇年間－創設前後のこと・その他	祖父江 孝男
		叙事詩と盲目性－視覚・身体・時空間	伊東 一郎
		大興安嶺を夢見て	黒田 信一郎
		アジア太平洋地域博物館セミナーで思ったこと	森田 恒之
		松原正毅著『遊牧の世界』	加藤 九祚
		杉本尚次著『日本民家の旅』	太田 邦夫
		李光奎著『在日韓国人－生活実態를中心으로	重松 真由美
		大島襄二編『トレス海峡の人々－その地理学的・民族学的研究』	秋道 智彌
		西アジアの絨毯の収集と研究	杉村 棟
		標本画像自動処理装置における標本寸法の計測	山本 泰則
		バークレイより	長野 泰彦
		アステカの地からこんにちは	八杉 佳穂

民博通信一覧

発行年月	号数	タイトル	執筆者
1984年7月	25	エスニシティー論の国際関係論への貢献－日本文化論との関連性を中心として	ベフ・ハルミ
		藤木高嶺著『楽しく学ぶ民族学』	端 信行
		小泉文夫対談集『音のなかの文化』	櫻井 哲男
		フィリピンの文字使用	山田 幸宏
		ヘルパーネックのいわゆる「アラスカ文字」	宮岡 伯人
		琉球の文字文化	中本 正智
		異体字と簡体字－中国民間の文字使用	高田 時雄
		「東南アジア・オセアニアにおける文化クラスターの構成と分析」	大林 太良・杉田 繁治
		「パプアニューギニアにおける社会・文化変容の比較研究」	畑中 幸子
		「アンデス・ヒマラヤ・アルプス－高度差利用の比較研究」	藤井 龍彦
		「人文科学研究におけるコンピュータ利用」	杉田 繁治
		上ナイルの牧畜民ナーリム族再訪によせて	福井 勝義
		民族資料と文化財－ICOM研修会で考えさせられたこと	宇治谷 恵
1984年10月	26	ヒマラヤの吟遊詩人・ガイネの謎－音楽職能集団の成立をめぐって	藤井 知昭
		ザンジバル－風土と生活	宮本 正興
		映画監督てんまつ記－民博PR映画の製作	和田 祐一
		松井健著『自然認識の人類学』	合田 濤
		君島久子訳『中国の神話－天地を分けた巨人』	村井 信幸
		U. T. Sirelius, ReisezudenOstjaken’	庄司 博史
		「日本民族文化の源流の比較研究」シンポジウムＶ社会組織－イエ・ムラ・ウジ	竹村 卓二
		ペキン語の言語遊戯－なぞなぞを中心に	相原 茂
		ナーリム族の資料収集紀行	福井 勝義
		サンパウロ人文研とブラジル人類学会	中牧 弘允
		合衆国東海岸一瞥記	福川 圭子
		古代インド季節祭の研究	永ノ尾 信悟
		映画映像による文化比較	大森 康宏
		国立民族学博物館所蔵のイヌイット版画資料	小谷 凱宣

民博通信一覧

発行年月	号数	タイトル	執筆者
1985年1月	27	大航海時代のユダヤ人－南蛮紅毛渡来史におけるユダヤ人の存在	ｼﾞｮｾﾌ・ﾙｲﾃﾝ
		青ケ島の塩辛	石毛 直道
		佐々木高明編著『雲南の照葉樹のもとで』	中尾 佐助
		伊藤幹治・栗田靖之編著『日本人の贈答』	梶原 景昭
		文明学部門国際シンポジウム「近代世界における日本文明」第二回都市と都市化の比較文明学	米山 俊直
		ザンジバルの口誦文化の諸相	宮本 正興
		テンボ族の名前について	梶茂 樹
		スバシ写本とコンピューターサンスクリット文献処理の実際	中谷 英明
		ロンボク島の泥棒暦	吉本 忍
1985年3月	28	「泰山石敢当」民俗信仰の由来	陶 陽
		小さな発見－「洋画」と「西湖景」	周 達生
		インド文明と文字使用の問題	徳永 宗雄
		ブラジル民衆史の口承性	ｼﾞｮｾﾌ・ﾙｲﾃﾝ著、河野 彰訳
		南米の金細工－コロンビアの金博物館のコレクションから	ｹﾈｽ・ﾗﾄﾞﾙ
		小山修三著『縄文時代－コンピュータ考古学による復元』	都出 比呂志
		杉本尚次編『日本のすまいの源流－日本基層文化の探求』	八木 康幸
		土方久功著、須藤健一校訂・解説『ミクロネシア＝サテワヌ島民族誌』	石森 秀三
		シンポジウム「日本在来技術文化の再評価」	中村 俊亀智
		シンポジウム「コンピュータ民族学への道」	久保 正敏
		パプアニューギニア現地だより	崎山 理
		第一回国際トルコ絨毯会議に寄せて	杉村 棟
		最小努力の最大収益	中牧 弘允
		HRAF資料紹介（一）	福川 圭子
		写真コンテストをふりかえって	岡田 精志

民博通信一覧

発行年月	号数	タイトル	執筆者
1985年7月	29	民具研究の現状と展望	中村 俊亀智
		モース・コレクション覚書（上）スケッチとリストとラベル	守屋 毅
		モンゴル民族に見る中国の少数民族教育	大塚 和義
		健康産業と薬店	吉田 集而
		M・ミード著畑中幸子訳『フィールドからの手紙』	橋本 征治
		小泉文雄著『歌謡曲の構造』	畑 道也
		秋道智彌著『魚と文化－サタワル島民族魚類誌』	松本 博之
		「アンデス・ヒマラヤ・アルプス－交換と交易」	藤井 龍彦・鹿野 勝彦
		子供の遊びと歌－韓国（済州島）の事例をめぐって	櫻井 哲男
		カロリン諸島における航海術の民族学的研究－ウォーファヌーの知識の東と西	秋道 智彌
		北西海岸インディアンのシルクスクリーン－北米原住民の現代芸術の一側面	小谷 凱宣
		文字画像情報システム整備計画について	柴田 正美・久保 正敏
1985年10月	30	私という空間に去来する雲	岩田 慶治
		スリナムの幸福な黒人共和国	ｼﾞｮｾﾌ・ﾙｲﾃﾝ著、有水 博訳
		ゴカイ食の広がり	周 達生
		五年目を迎えた「現代日本文化における伝統と変容」	守屋 毅
		日本語研究用データベースについて	中野 洋
		南米チリの言語遊戯－なぞなぞを中心に	三原 幸久
		古代インド祭式文献における語ろ合わせの意味	永ノ尾 信悟
		トナカイ飼育の歴史	佐々木 史郎

民博通信一覧

発行年月	号数	タイトル	執筆者
1986年1月	31	サウディ・アラビア覚書	安嶋 彌
		狩猟の文化史的位置と日本人の狩猟観に関する覚え書き	大泰 司紀之
		インディヘナ社会の民族誌を補うもの－ロサリオ・カステリャーノスの小説	黒田 悦子
		ブラジルの木版民芸	ｼﾞｮｾﾌ・ﾙｲﾃﾝ著、河野 彰訳
		佐々木高明編『日本文化の原像を求めて＊日本農耕文化の源流』	田中 耕司
		加藤九祚編『日本文化の原像を求めて＊＊日本のシャマニズムとその周辺』	川村 邦光
		藤井知昭編『日本文化の原像を求めて＊＊＊日本音楽と芸能の源流』	板谷 徹
		梅棹忠夫・石毛直道編『近代日本の文明学』	井上 章一
		梅棹忠夫・守屋毅編『都市化の文明学』	藤森 照信
		「イスラームの民族学的研究」	大塚 和夫
		「オーストラリア社会の研究」と研究公演「狩人の夢」の記録	松山 利夫
		初めての中国	長野 泰彦
		部族の戦いとゲリラの間で（一）真夜中の村入り－上ナイル・ナーリム族の調査過程から	福井 勝義
		武士身分解体のその後	園田 英弘
		『国立民族学博物館十年史』編纂二年半史	藤井 龍彦
1986年3月	32	チュルク系諸民族の歴史民族学的研究	加藤 九祚
		文化と文明	林 左馬衛
		瑤族の産育制度	胡 起望著、君島 久子・古谷 久美子共訳
		モース・コレクション覚書（下）－二通の手紙	守屋 毅
		ルーン文字についての考察	ｼﾞｮｾﾌ・ﾙｲﾃﾝ著、有水 博訳
		野村雅一著『ボディランゲージを読む－身ぶり空間の文化』を読んで	藤岡 喜愛
		石毛直道・栗田靖之・大丸弘・端信行著『暮しの文化人類学』	井上 忠司
		田中・ハールマン共著『現代ヨーロッパの言語』	庄司 博史
		杉本尚次・田主誠著『おおさかの民家』	関根 康正
		石毛直道・小山修三・山口昌伴・栄久庵祥二共著『ロスアンジェルスの日本料理店』	中野 不二男
		シュメールのことば遊び	吉川 守
		日本宗教の受容にみる文明比較－アメリカとブラジル	中牧 弘允

民博通信一覧

発行年月	号数	タイトル	執筆者
		韓国の指暦	松本 誠一
		「ウンチングペーパー」の植物考－中国福建省・畲族の村から	橋本 実
		問題になった〈分餐〉問題	周 達生
		太田邦夫著『ヨーロッパの木造建築』	杉本 尚次
		宮崎糺著『日本の民俗学シリーズ6笠の民俗』	中村 俊亀智
		小川了著『トリックスター・演技としての悪の構造』	渡辺 公三
		日本昔話における子どもへの一視点	小澤 俊夫
1986年7月	33	チベット語の言語遊び	武内 紹人
		技術誌記載の方向の枠組み「アフリカ諸民族の技術誌の整理と分析」	栗田 和明
		生命の誕生とその意味「オーストロネシアの産育慣行の比較研究」	松澤 員子
		都市と田舎のあいだで－非常事態下のリマから	山本 紀夫
		北ナイジェリアでの言語学的調査より帰って	宮本 律子
		奴隷に関する二、三の考察	小川 了
		ドロシー・ウェイマンのこと－モースの伝記作者の経歴	守屋 毅
		HRAF資料紹介（二）	福川 圭子
		“エスニック・ブーム”と音楽	藤井 知昭
		中牧弘允著『神々の相克－文化接触と土着主義』	対馬 路人
		佐々木高明著『縄文文化と日本人－日本基層文化の形成と継承』	寺沢 知子
		ピーター・ベルウッド著、池野茂訳『ポリネシア』	秋道 智彌
		幻想映画と民俗文化－マヌーサキス監督作品『エンチャントレス（女妖）』	山口 昌男
1986年10月	34	最近のレコードの動向－諸民族の音楽	櫻井 哲男
		『民族資料を中心とした文化遺物の保存と修理に関する基礎的研究』	森田 恒之
		計画思考と民族技術	中村 俊亀智
		ニューカレドニアの民族	和田 祐一
		モースの脳	守屋 毅
		第六回国際フィン・ウゴル学者会議に出席して	井上 紘一

民博通信一覧

発行年月	号数	タイトル	執筆者
1987年2月	35	《アイデンティティ》から《列維・斯特労斯》まで－日中外来語翻訳余話	竹村 卓二
		石森秀三著『危機のコスモロジー－ミクロネシアの神々と人間』	清水 昭俊
		森田恒之著『画材の博物誌』	三宅 宏司
		加藤九祚著『北東アジア民族学史－江戸時代日本人の観察記録を中心として』	荻原 眞子
		「つもり」のパフォーマンス	山口 修
		古代日本の皮革製作技法－古代日本における動物利用の一側面	松井 章
		村のまわり－香港新界の村落境界についての覚え書き	瀬川 昌久
		バクティをめぐる一考察	田中 雅一
		韓国東岸の筏船テッペ	出口 晶子
		カトマンズにて	立川 武蔵
		戦後日本の宗教人類学を課題にして	ﾔﾝ・ﾌｧﾝ・ﾌﾞﾚｰﾒﾝ
1987年3月	36	文化とヒューマン・エソロジー	日高 敏隆
		閑所柴のこと－伊豆諸島の「ウンチングペーパー」考	小島 瓔禮
		香米のこと	岸田 定雄
		中国北方へのたび	ﾕﾊ・ﾔﾝﾌﾈﾝ著、庄司 博史訳
		宮本勝著『ハヌノオ・マンヤン族－フィリピン山地民の社会・宗教・法』	関本 照夫
		山と島の村々から－日本列島・音楽文化の胎動	小島 美子
		『李朝の民芸』観楽	松井 健
		満州語のことばあそび	津曲敏郎
		イワム語の助数詞	吉田 集而
		民博入館者像のスケッチ－見られる側からみた見る側のイメージ	秦 明夫
1987年7月	37	建築におけるデザインサーヴェイ運動の盛衰について	土屋敦夫
		栄養学と科学と管理と	吉田 集而
		モンゴル族の去勢	大塚 和義
		オスカー・ルイスのこと	黒田 悦子
		依田千百子著『朝鮮民俗文化の研究－朝鮮の基層文化とその源流をめぐって』	杉山晃一
		映画における記録と仮構－戦後イタリアの場合	ｱﾝﾄﾆｵ・ﾏﾗｯﾂｨ著、野村雅一訳
		「日本民族文化の源流の比較研究」シンポジウムⅧ日本語の形成	崎山 理
		夷州の塩辛	石毛 直道
		オーウェルと失敗した供犠	田辺 繁治
		オーストラリア・フィールド事情	小山 修三
		としがみさんの棚	植田 啓二

民博通信一覧

発行年月	号数	タイトル	執筆者
1987年11月	38	民族学と地理学の学際関係	小林 茂
		アフリカ地域研究センター	田中 二郎
		友枝啓泰著『雄牛とコンドル－アンデス社会の儀礼と民話』	加藤 隆浩
		竹村卓二編『日本民俗社会の形成と発展－イエ・ムラ・ウジの源流を探る』	田中 真砂子
		福井勝義・谷泰編著『牧畜文化の原像生態・社会・歴史』	嶋田 義仁
		和田正平編著『アフリカ－民族学的研究』	米山 俊直
		ホンモノのインディアン－南米版「西部劇」としての『ミッション』	小林 致広
		「現代日本文化における伝統と変容」昭和六一年度の報告	石毛 直道
		「オーストラリア社会の研究」の活動記録（昭和六一年度）	窪田 幸子
		婚姻・性・知識	杉島 敬志
		クロニカ資料のKWIC検索二－中央アンデスの定期市の歴史	藤井 龍彦
		部族の戦いとゲリラの間で（二）なおも続く部族間の戦闘－上ナイル族の調査から	福井 勝義
1988年2月	39	マニキュアとペディキュア	谷 泰
		アシカの去来、アシカ雑記	岸田 定雄
		梅棹忠夫監修守屋毅編『祭は神々のパフォーマンス－芸能をめぐる日本と東アジア』	宮尾 慈良
		知と教養の諸側面－谷口シンポジウム「知と教養の比較文明学」をめぐって	栗田 靖之
		共同研究「民族とは何か」－学際的模索と問題提起の試み	川田 順造
		毛を刈らない去勢山羊の話	利光 有紀
		東南中国漢族文化の多様性－閩粤の旅より	瀬川 昌久
1988年3月	40	民博は本当に開かれた博物館か？－開館一〇周年にあたって	祖父江 孝男
		スーパーのキムチから	金 道権
		松山利夫著『山村の文化地理学的研究－日本における山村文化の生態と地域の構造』	小林 茂
		馬寅主編、君島久子監訳『概説・中国の少数民族』	長谷川 清
		開館一〇周年記念民族衣装ショー「マルコ・ポーロの道」余話	松本 敏子
		ジャンクヌー、ジャマイカの仮装舞踊行列について	長嶋 佳子
		モンゴル通信（一）民謡をめぐって	利光 有紀
		福音と殺戮、そして民族学－ジョージ・ブラウンの生涯	石森 秀三

民博通信一覧

発行年月	号数	タイトル	執筆者
1988年8月	41	英語語彙の借用とローマ字表記	和田 祐一
		渡邊欣雄著『沖縄の祭礼－東村民	杉島 敬志
		ミニ・シネサロン	大森 康宏
		文明の中の宗教－谷口シンポジウ	井上 順孝
		「絵画工芸からみた伝統的文化の	杉村 棟
		『英・フルフルデ語辞書』の誕生まで	江口　一久・中川 隆・松田 喜実
		モンゴル通信（二）羊乳チーズをめぐって	利光 有紀
		モンゴル通信（三）老女の口ぐせ	利光 有紀
1988年12月	42	ヨーロッパ思想史における日本観	ﾖｰｾﾞﾌ・ｸﾗｲﾅｰ
		黒田悦子著『フィエスター中米の祭りと芸能』	小泉 潤二
		和田正平著『性と結婚の民族学』	小馬 徹
		小川了著『サヘルに暮らす－西アフリカ・フルベ民族誌』	嶋田 義仁
		研究公演「アンデスの音楽と踊り」の舞台裏	山本 紀夫
		現代韓国社会と女性－ソウル・アパート団地における主婦のネットワークから	朝倉 敏夫
		タイ村落宗教研究における「体系」と「現実」	林 行夫
		バスの窓からみた「華僑」の故郷	江口 一久
		葬式から観光事業まで－日本における中国寺廟	祖 運輝
1989年1月	43	日本文化の仕組みについて	伊藤 幹治
		民具に学ぶまで	中村 俊亀智
		総合研究大学院大学文化科学研究科の発足にあたって	梅棹 忠夫
		リトルワールドの展示をめぐって	小林 繁樹
		クズの植物学的分類について	中尾 佐助
		大塚和義著『草原と樹海の民－中国・モンゴル草原と大興安嶺の少数民族を訪ねて	原山 煌
		オミズヨオミズ、コノヨデイチバンミニクイノハダーレ？（インド映画の世界を探る）	田中 雅一
		「日本民族文化の源流の比較研究」	大林 太良
		「現代日本文化における伝統と変容」昭和六二年度の報告	中牧 弘允
		「比較文明の方法論の研究」	杉田 繁治
		チュアン族と漢族との通婚に関する史的考察－一七世紀末～二〇世紀初を中心に	塚田 誠之
		白族の本主信仰とその神話伝承	新島 翠

民博通信一覧

発行年月	号数	タイトル	執筆者
1989年3月	44	個人文庫の形成と管理	梅棹 忠夫
		ラテン語学名のカナ表記が示唆するもの－英語の国際性の限界	和田 祐一
		周達生著『お茶の文化誌－その民族学的研究』	村井 康彦
		池上良正著『津軽のカミサマ－救いの構造をたずねて』	中牧 弘允
		在日済州人の儀礼生活と社会組織	李 文雄著、朝倉 敏夫訳
		邪術と変身	吉田 憲司
		呼倫貝爾草原のエヴェンキ族（一）	佐々木 史郎
		トロントの民族新聞	江口 一久
1989年8月	45	民博創設の頃	中山 和芳
		松原正毅著『トルコの人びと－語り継ぐ歴史の中で』	永田 雄三
		羅信耀著、藤井省三等共訳『北京風俗大全－城壁と胡同の市民生活誌』	中島 利郎
		「サムルノリ」公演顛末記	櫻井 哲男
		日本旧石器時代の食糧と人口	小山 修三
		呼倫貝爾草原のエヴェンキ族（二）	佐々木 史郎
		モンゴルの乳製品	利光 有紀
1989年11月	46	タイにおけるエリートと民衆	石井 米雄
		研究業績の評価について	梅棹 忠夫
		米語の聞き取りにくさと国際英語	和田 祐一
		エストニアの民族運動－言語法の裏にあるもの	庄司 博史
		櫻井哲男著『「ソリ」の研究－韓国農村における音と音楽の民族誌』	塚田 健一
		『レインマン』（B・レビンソン監督作品）	菅原 和孝
		狩猟採集社会の文化変容－谷口シンポジウム民族学部門第一二回「危機にたつ狩猟採集民」から	松山 利夫
		「漢族の地域性とアイデンティティー」	瀬川 昌久
		不惑のフィールドワーク	久保 正敏
1990年3月	47	アンデスの女性	ﾏﾘｱ・ﾛｽﾄｳｫﾛｳｽｷｰ
		英語の非英語系地名表記－表記にいける英語の限界	和田 祐一
		フォルクローレはなぜうけるか	櫻井 哲男
		「パプアニューギニアにおける伝統的社会の研究」	吉田 集而
		アッサムの旅から	栗田 靖之
		続・不惑のフィールドワーク	久保 正敏
		国際観光学アカデミー－観光研究の最近の動向	石森 秀三

民博通信一覧

発行年月	号数	タイトル	執筆者
1990年3月	48	龍鳳文化試論－私の歩んだ道	君島 久子
		世界の再編成とトルコ系諸民族	松原 正毅
		一九八九年夏の中国東北部調査旅行から	ﾕﾊ・ﾔﾝﾌﾈﾝ著、庄司 博史訳
		北方言語・文化研究会編『民族接触－北の視点から』	佐々木 史郎
		「服装の比較文化論的基礎研究－服装関連のシソーラスの評価」	大丸 弘
		「台湾原住諸民族の民俗概念に関する比較研究」	松澤 員子
		アーネムランド・アボリジニ、ジナン族の精神世界ノート	松山 利夫
		デラドゥン便り	長野 泰彦
		民族の戦いとゲリラの間で（三）日記の断片－上ナイル・ナーリム族の調査から	福井 勝義
1990年8月	49	アムステルダムで会ったミヘの青年－人が民族集団を意識する時	黒田 悦子
		アルファベットの無理	八杉 佳穂
		松井健著『セミ・ドメスティケーション－農耕と遊牧の起源再考』	小川 了
		『フランスの思い出』頌（ジャン＝ルー・ユベール監督作品）	小川 了
		チベットの大祈願祭（モンラム）	谷口 富士夫
		「始原の小屋（primitivehut）」の発見－民族建築学の射程	佐藤 浩司
		ヴァイドゥヤナータ詣でとその縁起譚	永ノ尾 信悟
1990年12月	50	翻訳－イギリスの小説に発して－（上）英和辞典への誘い	福川 圭子
		大島襄二・浮田典良・佐々木高明編著『文化地理学』	渡邊 欣雄
		ジョセフ・M・ルイテン著中牧弘允・荒井芳廣・河野彰・古谷嘉章・東明彦訳『ブラジル民衆本の世界－コルデルにみる詩と歌の伝承』	中川 文雄
		映画『老人と海』礼賛	松井 健
		「現代日本文化における伝統と変容」昭和六三年度、平成元年度の報告	守屋 毅・小山 修三
		「成人T細胞白血病の民族疫学的研究」	石毛 直道
		「住居空間の民族学的研究」	杉本 尚次
		ザンジバル・ドア収集始末記	和田 正平
1991年3月	51	アメリカ東部の博物館－アメリカ自然史博物館のアイヌ・コレクション	小谷 凱宣
		吉本忍著『岡田コレクションインドネシアの更紗展』	井関 和代
		須藤健一著『母系社会の構造－サンゴ礁の島々の民族誌』	中山 和芳
		杉本尚次著『ベースボール・シティースタジアムに見る日米比較文化』	八木 康幸
		梅棹監修、端信行・吉田憲司編集『赤道アフリカの仮面』	梅原 賢一郎
		「特別・企画展示の基本構成」によせて	佐々木 高明
		アムール川下流域住民の研究に関する覚え書き	佐々木 史郎
		総合研究大学院大学文化科学研究科の現況	杉本 尚次
		モロッコの旅－断章	大塚 和夫

民博通信一覧

発行年月	号数	タイトル	執筆者
		守屋毅教授の夭逝を悼む	佐々木高明
		翻訳－イギリスの小説に発して（下）“翻訳”とは－外国語から日本語へ	福川 圭子
		大塚和夫著『異文化としてのイスラーム－社会人類学的視点から』	鷹木 恵子
1991年3月	52	ケンペルが聞いた元禄の音－『日本誌』のサウンドスケープ	櫻井 哲男
		「現代日本文化における伝統と変容」平成元年度シンポジウム「情報と日本人」	久保 正敏
		「ヒンドゥー的世界観に関する民族学的研究」	永ノ尾 信悟
		ライフヒストリーと世帯構成票－オーストリアの家をとらえる視覚	森 明子
		守屋毅さんのこと－北米調査を中心に	杉本 尚次
		病床での守屋さん	熊倉 功夫
		守屋毅最後の十年	園田 英弘
		立川武蔵著『女神たちのインド』	森 雅秀
		井上順孝・孝本貢・対馬路人・中牧弘允・西山茂編『新宗教事典』	関 一敏
1991年8月	53	錦影絵・幻燈・活動大写真	中牧 弘允
		「アジア・太平洋地域における民族文化比較研究」平成二年度シンポジウム「海人の世界」	秋道 智彌
		「アイヌ関係資料の国内コレクション所在調査とその民族学的研究への活用」	大塚 和義
		合研究大学院大学－三年次を迎えて	藤井 知昭
		はじめてのヒマラヤ	山本 紀夫
		ゾウとカバの綱引き	江口 一久
		文化における柔構造と剛構造	垂水 稔
		石森秀三編『観光と音楽』民族音楽叢書6	永原 惠三
		中牧弘允著『宗教に何がおきているか』	池上 良正
		神崎宣武著『観光民俗学への旅』	前田 武彦
		小山修三著『縄文探検』	奥野 卓司
1991年11月	54	「大インド展」におけるパフォーマンス展示－経緯と民俗芸能紹介	長野 泰彦
		「現代日本文化における伝統と変容」平成二年度（最終年度）の報告、各個研究成果一覧（昭和五六～平成二年度）	中牧 弘允
		「エスニックな出会い－文化の葛藤と創造」	黒田 悦子
		「オーストロネシア民族の拡散と変容に関する人類学的研究」	秋道 智彌
		負のナショナリズム－人類学者が政治を語るため未完成のノート」	田村 克己
		転用について	近藤 雅樹

民博通信一覧

発行年月	号数	タイトル	執筆者
1992年3月	55	ジャガンナータ信仰とその縁起譚	永ノ尾 信悟
		小長谷有紀著『モンゴルの春－人類学スケッチ・ブック』	原山 煌
		石毛直道・ケネス・ラドル著『魚醤とナレズシの研究－モンスーン・アジアの食事文化』	鄭 大聲
		岩井宏實監修、近藤雅樹編『図説日本の妖怪』	宮田 登
		片倉もとこ著『イスラームの日常世界』	後藤 明
		「大インド展－ヒンドゥー世界の神と人」の計画とその経過	栗田 靖之
		壮族と「漢族」との関係－広西柳城県の調査から	塚田 誠之
1992年3月	56	日本を愛し、平和を祈った人類学者ゴードンT. ボウルズ先生の想い出	松澤 員子
		松原正毅著『遊牧民の肖像』	松井 健
		谷泰編『文化を読む－フィールドとテクストのあいだ』	大塚 和夫
		「二〇世紀における諸民族文化の伝統と変容」	端 信行
		「東南アジア島嶼部における法文化の人類学的研究」	宮本 勝
		「韓国社会：伝統の形成とそのトランスフォーメーション」	嶋陸 奥彦
		ミクロネシアのカヌーの構造と建造	須藤 健一
		風狂のうたびとたち	村瀬 智
1992年7月	57	民家研究への道	杉本 尚次
		J. G. PeristianyandJulianPitt－Rivers(eds.)HonorandGraceinAnthropology	黒田 悦子
		佐々木高明著『日本史誕生』	小山 修三
		諸民族文化の見とり図づくり－特別研究「アジア・太平洋地域における民族文化の比較研究」	松原 正毅
		女神研究への視座－北米の女神崇拝運動をめぐって	田中 雅一
		ネパールにおける「文化の垂直構造論」展望	南 真木人
		総合研究大学院大学文化科学研究科に国際日本研究専攻が新設	和田 正平
		トーマ・ターシャ－エチオピアの遊びの世界	篠原 徹
		谷元旦「毛夷武餘嶌圖」について	大塚 和義

民博通信一覧

発行年月	号数	タイトル	執筆者
1992年10月	58	民族の森・ダゲスタン－その民族とイスラム以前の宗教観念	加藤 九祚
		国家と民族－国際社会における民族をどう考えるか	片倉 もとこ
		福井勝義著『認識と文化－色と模様の民族誌』(認知科学選書21)	崎山 理
		杉本尚次著『欧米伝統文化の実像－民家を中心とした生活形態の研究』	石塚 道子
		中川敏著『異文化の語り方－あるいは猫好きのための人類学入門	佐々木 史郎
		新着資料展示「サハリン島の河海とツンドラ－覚書」	大塚 和義
		「ヨーロッパ周縁地域の民族問題と移民・難民・亡命」	畑中 幸子
		「音の文化をめぐる表徴の比較研究」(研究代表者・藤井知昭)	鈴木 道子
		「上座部仏教社会の宗教」	田辺 繁治
		歴史、民族、親族、そして呪術	清水 昭俊
		地域、民族間関係と民族誌	栗本 英世
		地縁・血縁・学縁－韓国の選挙にみる人間関係	朝倉 敏夫
1993年3月	59	インド哲学と世界の聖化	立川 武蔵
		「もののけ」と「もののふ」の居酒屋談議	中牧 弘允
		黒田悦子著『スペインの民俗文化』	宇田川 妙子
		岩田慶治著『日本人の原風景－自分だけがもっている一枚の風景画』	垂水 稔
		山田陽一著『霊のうたが聴こえる－ワヘイの音の民族誌』	塚田 健一
		ラオスの民族文化－新着資料展示覚書	林 行夫
		日本の映像文化にかかわる最近の動向	大森 康宏
		「明治年間のアイヌ研究史の再検討－明治時代の北米アイヌ・コレクションをめぐって	小谷 凱宣
		ラオスの機織り	吉本 忍
		琉歌の話	小島 瓔禮
1993年3月	60	枕について	吉田 集而
		国際先住民年－リーゴベルタ・メンチューのノーベル平和賞受賞によせて	黒田 悦子
		変貌する食の中国地図	周 達生
		小長谷有紀著『モンゴル万華鏡－草原の生活文化』	一ノ瀬 恵
		MasakazuTanakaPatrons, DevoteesandGoddesses：RitualandPoweramongtheTamilFishermenofSriLanka	関根 康正
		『二〇世紀の音』シンポジウム報告	櫻井 哲男
		『遊牧論』の現在	小長谷 有紀
		カボ・ベルデ紀行	小川 了
		国際シナ・チベット言語学会	長野 泰彦

民博通信一覧

発行年月	号数	タイトル	執筆者
1993年8月	61	職場と住まい－退官までの回顧	梅棹 忠夫
		動の思想	片倉 もとこ
		小山修三編著『狩猟と漁労－日本文化の源流を探る』	牧野 久実
		山本紀夫著『インカの末裔たち』	木村 秀雄
		梅棹忠夫著『実践・世界言語紀行』	和田 祐一
		広西靖西県壮族の歴史と現状－新着資料展示覚書	塚田 誠之
		映画「マルコムX」を見て	栗田 禎子
		中国大陸少数民族の「漢化」の諸側面ー儀礼を中心とした整理と分析	竹村 卓二・塚田 誠之
		ボルネオの社会構造研究覚え書き	上杉 富之
		課程博士第一号と論文博士への道	崎山 理
		丸木舟収集記－川から見る陸の世界	南 真木人
		映像音響資料の製作と収集－平成四年度の収集資料より	鈴村 明
1993年11月	62	カラオケ一七年	櫻井 哲男
		PSKのこと	小川 了
		隠れ家	熊倉 功夫
		杉本尚次著『アメリカの伝統文化－野外博物館ガイド』	中牧 弘允
		秋道智彌著『アユと日本人』	高橋 公明
		「二〇世紀における諸民族文化の伝統と変容」平成三年度、四年度の報告	庄司 博史
		服装データベース構築のためのドキュメンテーション手法	大丸 弘
		民族学資料を中心とする博物館展示照明の基礎研究	森田 恒之
		ルーマニアにおける伝統観と近代化－伝統文化の破壊と保存をめぐって	新免 光比呂
		中欧研究における歴史学と人類学－HistorischeAnthropologie誌によせて	森 明子
		ハニ族の文化に関する国際会議	藪 司郎
		シンガポール・東南アジア研究所	田村 克己

民博通信一覧

発行年月	号数	タイトル	執筆者
1994年2月	63	開発人類学のすすめ	大給 近達
		私たちの憲法は病んでいる－トンガ王国の民主化運動	須藤 健一
		中牧弘允著『陶酔する文化－中南米の宗教と社会』	竹沢 尚一郎
		吉田憲司著『仮面の森』	真島 一郎
		エストニア新着資料展紹介－ソ連解体後のエストニアでの民族資料収集に関わる若干の覚書と随想など	庄司 博史
		シンポジウム「再生する宗教」	田辺 繁治
		「国家時代におけるパプア文化」	吉田 集而
		「ヒマラヤ－自然、人間、社会」	栗田 靖之
		スーダンのマフディー運動について	栗田 禎子
		ボルネオ焼畑農耕民の贈与交換	上杉 富之
		オランダの国立総合文書館	杉島 敬志
		シンポジウム『シナ・チベット系諸民族の言語文化－東アジア諸言語のダイナミズムを求めて』・第二六回国際シナ・チベット言語学会	長野 泰彦
1994年3月	64	人間的なるものについて	大貫 良夫
		佐々木高明編『農耕の技術と文化』	飯沼 二郎
		須藤健一・杉島敬志編『性の民族誌』	山本 真鳥
		アジア・太平洋地域における民族文化の比較研究第五回シンポジウム『洗練と粗野－社会関係を律する価値観』	清水 昭俊
		「ヨーロッパ基層文化の研究」	川田 順造
		「文化としての発展に関する経済人類学的研究」	端 信行
		メキシコにおける民族間関係の歴史的展開について	安村 直己
		「キリスト教の死生観とルーマニアの関係について」	新免 光比呂
		「近代世界とインディオ共同体」	安村 直己
		「韓国の祭祀食を通して見た巫俗と仏教－ソウルを中心に」	金尚 寶
		バリをめぐる近年の歴史研究と植民地時代の資料について	永渕 康之
		「博物館国際交流小セミナー」のこと	森田 恒之
		共有財産を考える会議に出席して	秋道 智彌

民博通信一覧

発行年月	号数	タイトル	執筆者
		漢蔵語族管見	西田 龍雄
		恍惚剤について	吉田 集而
		「まなざし」の中の民族と異文化－南ラオス調査から	林 行夫
		アボリジニーの先住権をめぐる新たな状況－マボ判決、先住民権原法、そして人類学者の役割	細川 弘明
		瀬川昌久著『客家－華南漢民族のエスニシティーとその境界』	西澤 治彦
		吉田集而著『東方アジアの酒の起源』	小泉 武夫
		企画展「台湾先住民の文化－伝統と再生」を終えて	松澤 員子
1994年7月	65	「北東アフリカにおけるエスノシステムの実証的研究」	栗本 英世
		熱分解ガスクロマトグラフィーを博物館資料の調査に応用する可能性	園田 直子
		TheStoryofTabanloLiyong	ﾀﾊﾞﾝ･ﾛ･ﾘﾖﾝ
		韓国の開港（開国）における日本の役割	金 基赫
		ラオスにおける仏教と仏教美術	ﾌﾞﾝﾍﾝ･ﾌﾞｱｼ
		顕微鏡でみる紙の素材と製紙法	園田 直子
		チベットの農村と農民－ダ村を中心にして	徐 平
		「奥地」から	江口 一久
		翻訳の行為（創設二〇周年記念シンポジウム講演）	ｼﾞｮﾝ･ﾏｯｸ
		周達生著『中国食探検－食の文化人類学』	渡辺 弘之
		新着資料展示日本海の磯漁	秋道 智彌
		民博創設二〇周年記念事業「民博周遊」開催の記録	近藤 雅樹
		スンダ音楽はジャワ音楽の反転像？	福岡 正太
		「二〇世紀における諸民族文化の伝統と変容」平成五年度の報告シンポジウム「映像文化」	大森 康宏
1994年10月	66	フォーク・ニューミュージックに見る恋愛風景－分析の予報	久保 正敏
		シンガポール社会における宗教の趨勢	ﾄﾝﾁｰｷｮﾝ
		漢化した民族の研究－中国雲南省の白族	横山 廣子
		ポップ・スンダ－伝統音楽からポピュラー音楽へ	福岡 正太
		移住・家族の分散・海外華族のアイデンティティ	ﾁｬﾝ･ｸﾜ･ｵﾌﾞﾝ
		フィーとウダラース－ベダムニ族の親族関係	林 勲男
		文字と語りをつなぐ経路－北京から河北省農村へ	井口 淳子

民博通信一覧

発行年月	号数	タイトル	執筆者
1995年1月	67	『梅棹忠夫著作集』刊行始末	梅棹 忠夫
		文献学者とフィールドワーク	永ノ尾 信悟
		田辺繁治編著『実践宗教の人類学－上座部仏教の世界』	小野 澤正喜
		竹村卓二編『儀礼・民族・境界－華南諸民族「漢化」の諸相』	田村 克己
		千葉徳爾著『たたかいの原像－民俗としての武士道』	野村 雅一
		「ウィチョルの毛糸絵」の展示	黒田 悦子
		中国少数民族の歌と踊り－ホジェン・ダフール・シェー族	藤井 知昭
		中国における民族的帰属の変更に関する覚書	横山 廣子
		夢の体験を語るということ－パプアニューギニアの調査データより	林 勲男
		オイラート・モンゴル族の英雄叙事詩『ジャンガル』について	額 爾岱
		私のとらえる日本茶道の視点茶道と日本文化	陸 留弟
		昔女性が泣き歌い、今男性が泣き笑う－ソロモン諸島国チョイスル島における音楽芸能の動態	田井 竜一
		日本の物質文化Shoku, Shokki, Shokumotsu, Shinmotsu	ｼﾞｬｰﾇ・ｺﾋﾞｰ
		課程博士授与までの研究指導体制	清水 昭俊
		太平洋アジア地域研究所（ResearchSchoolandStudies, ANU）について	吉田 集而
		アミ族の豊年祭－伝統の再生と観光開発のはざまで	松澤 員子
1995年3月	68	電子図書館	長尾 真
		インドネシアのドラえもんと「民族文化」	関本 照夫
		朝倉敏夫著『日本の焼肉韓国の刺身－食文化が“ナイズ”されるとき』	奥村 彪生
		石川榮吉監修、大塚他編『オセアニア①島嶼に生きる』	後藤 明
		特別展『絨毯－シルクロードの華』をおえて	杉村 棟
		ことばの危機・民族の危機・人の危機－北方少数民族言語の直面する問題に関して	庄司 博史
		『技術の比較文明学的研究』	杉田 繁治
		『数理民族学：その応用的研究』	杉藤 重信
		近代における民具の変容脱靴器をめぐって－特許・実用新案広報の調査から	近藤 雅樹
		一九六〇年代のポップ・スンダ	福岡 正太
		ヨグヤカルタ王宮のスリンピ舞踊－振付の美的概念の考察	F・X・ｳｨﾀﾞﾙﾔﾝﾄ
		契丹人はなに語をはなしていたか	ﾕﾊ・ﾔﾝﾌﾈﾝ
		マラムレシュの夏	新免 光比呂
		写真で見る日本統治期の台湾先住民の生活－瀬川孝吉氏の写真資料紹介	松澤 員子

民博通信一覧

発行年月	号数	タイトル	執筆者
1995年6月	69	変則の民族学	周 達生
		モンゴル流『ノックは不要』	小長谷 有紀
		モレリーア（芸能の貸衣装屋）見聞記－－グアテマラ、一九九五年三月－－	黒田 悦子
		アボリジニの物質文化と日本の博物館・姉妹都市	松山 利夫
		近藤雅樹著『おんな紋－－血縁のフォークロア』	波平 恵美子
		和田正平著『裸体人類学－－裸族からみた西欧文化』	嶋田 義仁
		ライブ・コンサートの試み－－『ラテンアメリカの音楽と楽器』展から	山本 紀夫
		谷口シンポジウム文明学部門「交通の比較文明学」	秋道 智爾
		酒と飲酒の文化－－研究終了にあたって	石毛 直道
		農村作家と語りもの芸人－－中国・口承物語再生の一プロセス	井口 淳子
		アルタイ・ウリヤンハイの遊牧について	ﾙﾊｸﾞﾊﾞｽﾚﾝ、ｲﾁﾝﾎﾙﾛｰｷﾞｰﾝ
		酒とシダーの民－－カナダ北西海岸紀行－－	久保 正敏
		ハーバード大学人類学部ピーボディー考古学・民族学博物館（Peeabody Museum of Archaeology and Ethnology, Harvard University Museum of Cultural and Natural History）の展示替え	南 真木人
1995年10月	70	視野・身辺考	大丸 弘
		民族学と文化人類学－学会の改称問題によせて	清水 昭俊
		「少数民族」の重要性	佐々木 史郎
		アジア・太平洋地域における民族文化の比較研究　第6回シンポジウム「マンダラと自己－インド的宇宙論」	立川 武蔵
		「20世紀における諸民族文化の伝統と変容」平成6年度の報告	庄司 博史
		韓国農村社会における巫俗と仏教－韓国京畿道楊州郡K村の事例	重松 真由美
		イスラエルに居住する中東イスラーム世界出身のユダヤ教徒の研究をめぐって	臼杵 陽
		阪神大震災と国立民族学博物館	宇野 文男

民博通信一覧

発行年月	号数	タイトル	執筆者
1996年1月	71	台湾先住民社会の未来を見つめて	松澤 員子
		私のラテンアメリカ都市研究	山田 睦男
		民族間関係の場から－メキシコ・ミチョミアカンのフィールドで	安村 直己
		稲村哲也著「リャマとアルパカ－アンデスの先住民社会と牧畜文化」	小長谷 有紀
		書評リプライ　新旧大陸間の牧畜文化議論	稲村 哲也
		新着資料展示「赤道アフリカの儀礼的貨幣」	端 信行
		マルチメディア・コーナーの舞台裏－「ラテン・アメリカの音楽と楽器展」	草場 匡宏・高橋 淳
		宗教体系と民族誌記述の方法	田村 克己
		歴史研究にもとづく人類学批判	杉島 敬志
		アフリカにおける牧畜と国家－周辺性か、包括か	ビクター・アザリア
		長期計画策定特別委員会・博物館活動部会からの報告－これからの民博の展示をめぐって	端 信行
		大学本部と文化科学研究科の動き	清水 昭俊
		ヌンブール峰の麓にて　ネパール・ヒマラヤの調査から（上）	山本 紀夫
		ALAP（Archi－Link　Asia－Pacific）－パソコン通信を利用したアジア・太平洋建築情報ネットワークづくりの試み	佐藤 浩司
1996年3月	72	矛盾を活力に－日本民族学会の名称変更問題について	中牧 弘允
		民族自然誌研究会の発足	阪本 寧男
		ネパールの学校	結城 史隆
		特別シンポジウム「縄文文化を考え直す－三内丸山遺跡をめぐって」	岡田 康弘・佐原　眞・阪本 寧男・藤原 宏志・佐々木 高明・小山 修三
		時間へのアプローチ－特別研究　＜アジア・太平洋地域における民族文化の比較研究＞　シンポジウム「時間とことば」をめぐって	長野 泰彦
		文部省国際シンポジウム「アジア諸民族音楽文化のダイナミズム－伝統と変容」	福岡 正太
		ムラユからブミプトラへ－マレーシアにおけるアイデンティティの政治的操作	シャムスル・アムリ・バハルッディン
		南アジアにおける心霊主義と民族主義－狂言廻しとしての「神智協会」	杉本 良男
		オーストラリア・アボリジニのX線画に見るシンボリズム	ルーク・テイラー
		セネガルの出稼ぎ労働者	三島 禎子
		現代モンゴルの遊牧移動について	ルハグヴァスレン

民博通信一覧

発行年月	号数	タイトル	執筆者
1996年6月	73	データベースの森の小径	大丸 弘
		メキシコ系アメリカ人と日系人の接触－覚書	黒田 悦子
		異国での故郷発見－民博の「蔚山コレクション」	李 文雄
		都市の「蒙古包（ゲル）」	楊 海英
		色音さん	小長谷 有紀
		久保正敏著『コンピュータ・ドリーミング』	金田 章裕
		ルーマニアの伝統と変容をおって－トランシルヴァニアでの映像資料取材	新免 光比呂
		「伝統主義者」と「修正主義者」とのあいだの論争をめぐって－カラハリ・サン研究の事例	池谷 和信
		ソニンケ社会における出稼ぎと家族の形態	三島 禎子
		植物の伝播と人の移動－ポリネシアにおける複雑な歴史の証拠	ピーター・マシウス
		課程博士を授与する大学院－民博を基盤とする2専攻の7年	清水 昭俊
		ヌンブール峰の麓にて　ネパール・ヒマラヤの調査から（下）	山本 紀夫
		南オーストラリア博物館のアボリジナル・ファミリー・ヒストリー・プロジェクト	ネヴァ・ウィルソン
1996年9月	74	「音」のフィールド・ワーク回顧	藤井 知昭
		国際化時代の国立博物館－九州国立博物館	小林 茂
		カリブ海地域社会と観光	江口 信清
		クリストファー・ベックウィズさん	武内 紹人
		印炳善さん	朝倉 敏夫
		伊藤幹治著『贈与交換の人類学』	春日 直樹
		書評リプライ　春日氏にこたえる	伊藤 幹治
		栗本英世著『民族紛争を生きる人々』	大塚 和夫
		「ワヤンの広場」映像取材記	福岡 正太
		「20世紀における諸民族文化の伝統と変容」平成7年度の報告	庄司 博史
		「20世紀における諸民族文化の伝統と変容」シンポジウム「文化の生産」	田村 克己
		民族誌写真に「近代」をさぐる－大英博物館との国際共同研究から	佐々木 高明・吉田 憲司
		マヤの織物の民族学的研究－共同研究と特別展	八杉 佳穂
		ウズベキスタンにおける歴史の見直しの一断面－「英雄」になったマダミンベク	帯谷 知可
		中央ブラジルの2つの先住民社会における身体表象－メヒナク（シングー川上流域）とカラジャ（アラグアイア川）	マリア・エロイーザ・F・コスタ
		大学本部と文化科学研究科の動き	藤井 龍彦
		変わりゆく巫俗－韓国京畿道の農村を訪ねて	重松 真由美
		民博ホームページ作成奮戦記	佐々木 隆夫

民博通信一覧

発行年月	号数	タイトル	執筆者
		館長が語る民博像	佐々木 高明
		チカノ小説の魅力	黒田 悦子
		雲南古代滇族とその芸術	李 昆声
		民主国家と秘密	大津留(北川)智恵子
		高全恵星さん	福川 圭子
		馬戎さん	野林 厚志
		小長谷有紀著『モンゴル草原の生活世界』	林 俊男・荻原 守・一ノ瀬 恵
1997年1月	75	野村雅一著『身ぶりとしぐさの人類学』	臼杵 陽
		「情報展示」への道－第7展示場のオープンに際して	栗田 靖之
		映画と女性―「あいち国際女性映画祭’96」に参加して	山下 博司
		都市における先住民社会の研究	松山 利夫
		カナダ・イヌイットの助産人と社会変化―社会慣習の再生産と変化	岸上 伸啓
		民俗芸能の現況とその理解に関する覚書	笹原 亮二
		イギリス植民地のベチュアナランドにおける社会史	池谷 和信
		現代を生きるフラ	林 勲男
		アンデス調査の30余年	友枝 啓泰
		13年目の民博－民博情報システム再訪	八村 広三郎
		琵琶湖は展示可能か？－琵琶湖博物館：開館直後の一学芸員のつぶやき	嘉田 由紀子
		イチンホルローギーン・ルハグバスレンさん	小長谷 有紀
		吉田集而著『風呂とエクスタシー－入浴の文化人類学』	本田 洋
		佐々木史郎著『北方から来た交易民－絹と毛皮とサンタン人』	菊池 俊彦
1997年3月	76	映画「ビフォア・ザ・レイン」	栗本 英世
		谷口シンポジウム文明学部門「情報と通信の比較文明学」	久保 正敏
		韓国社会：高度経済成長下のフィールドワーク	嶋陸 奥彦
		過去の復元とエスノアーケオロジー	野林 厚志
		ビルマ語の　－ha_と日本語の「は」についての覚え書き	加藤 昌彦
		「ミュージアムへの招待」週間で思うこと	園田 直子
		アイヌの「飼い型」の送り儀礼と北方交易	岸上 伸啓

民博通信一覧

発行年月	号数	タイトル	執筆者
1997年6月	77	時系列の展示	石毛 直道
		フィリピン系アメリカ人が奏でるゴング音楽の響き	寺田 吉孝
		ミュージアム・エデュケーターという職業	三木 美裕
		和田正平編著『アフリカ女性の民族誌 ― 伝統と近代化のはざまで』	須藤 健一
		藤井知昭監修・民博「音楽」共同研究編『「音」のフィールドワーク』	植村 幸生
		イ・ヨンスク著『「国語」という思想 ― 近代日本の言語認識』	安田 敏朗
		ビデオブック「ジプシー・マヌーシュの生活」評－映像メディアの進化と人類学的知覚	山中 速人
		アジア・太平洋地域における民族文化の比較研究 シンポジウム「土地所有の政治史」	杉島 敬志
		「経営人類学」物語－21世紀へのフロンティア	三井 泉
		イエズス会ミッションにおける民族の創出－植民地時代の「モホ」の社会変容	齋藤 晃
		タフテ・ソレイマーンのタイルに現われた中国モチーフ	桝屋 友子
		オーストラリア出張記	阿部 雅機
		韓国におけるモンゴル研究の動向	色 音
1997年9月	78	民族学は複雑系をどう解きほぐすか	杉田 繁治
		東と西の出会い	杉村 棟
		ルーブル美術館を中心にみるフランスの博物館事情	園田 直子
		もうひとりのロレンス、E・A・パーマー	西尾 哲夫
		ペルー日本大使公邸人質事件再考	村上 勇介
		縄文の言葉と音楽	小山 修三・崎山 理・土取 利行・藤井 知昭
		秋道智彌著『海洋民族学－海のナチュラリストたち』	田中 耕司
		David Joel STEINBERG, THE PHILIPPINES: A Singular and a Plural Place	石井 正子
		「東南アジア展示」のリニューアル－経過と問題点	田村 克己
		「見る」「集める」「調べる」－新作みんぱく広報映画の紹介	松山 利夫
		「20世紀における諸民族文化の伝統と変容」平成8年度の報告	新免 光比呂
		文化科学研究科の動き	長野 泰彦
		タンザニア鉄道の旅	小森 淳子
		青海省への漢族移住の歴史的考察－青海省東部地方を中心にして	秦 永章
		学術情報の蓄積フロー－考古学研究におけるインターネットの可能性と今後の展望	内山 純蔵

民博通信一覧

発行年月	号数	タイトル	執筆者
1997年12月	79	遊牧研究所構想	松原 正毅
		民博とともに25年－回顧と展望	佐々木 高明
		地方に生きる民俗博物館	櫻庭 俊美
		オセアニアは「天然の実験室」か	印東 道子
		女性チカノ小説の登場	黒田 悦子
		全京秀さん	朝倉 敏夫
		ウェディ・スミスさん	中牧 弘充
		賈蕙萱さん	小長谷 有紀
		中国大陸古文化研究会編『中国大陸古文化研究』	塚田 誠之
		森隆男著『住居空間の祭祀と儀礼』	山田 慎也
		ヒンドゥイズムの展示	立川 武蔵
		融解する政治「制度」－ペルーとメキシコの事例からの一考察	村上 勇介
		オランダの表具師	近藤 雅樹
		村山智順師の謎	朝倉 敏夫
1998年3月	80	物とくらしかた	熊倉 功夫
		民博開館20周年によせて	伊藤 幹治・上田 正昭・岡田 節人・木田 宏・木村 重信・窪 徳忠・樋口 敬二・本間 長世
		キルギスタンのクラスナヤ・レーチカ村の人びと	加藤 九祚
		民族動物学をめぐる私のその後	周 達生
		チャールズ・F・カイズさん	田辺 繁治
		断食明けと音楽－インドネシア、1997	福岡 正太
		「女性」概念の解体の行方－表象・アイデンティティという危機	宇田川 妙子
		LSE フライデー・モーニング・セミナー	平井 京之介
		北京藏学討論会	長野 泰彦
		「新生殖技術」時代の人類学－英国の最近の新聞記事から	上杉 富之

民博通信一覧

発行年月	号数	タイトル	執筆者
1998年7月	81	博物館ブーム	端 信行
		アフリカ研究三十余年の軌跡	和田 正平
		研究発表のたくらみと楽しみ―その多角的構成の可能性	落合 一泰
		世界化と土着化―オセアニアのスポーツ	橋本 和也
		放送大学における文化人類学教育	原尻 英樹
		トーマス・ミッチェル・アーンストさん	林 勲男
		近藤雅樹著『霊感少女論』、近藤雅樹・高津美保子・常光徹・三原幸久・渡辺節子編著『魔女の伝言板－日本の現代伝説』	田中 雅一・鏡 リュウジ
		立川武蔵著『マンダラ瞑想法－密教のフィールドワーク』	正木 晃
		石毛直道編著・有賀秀子・小長谷有紀・金世琳・カルピス株式会社基盤技術研究所著『モンゴルの白いご馳走－大草原の贈りもの「乳酸」の秘密』	石井 智美
		公開フォーラム「越境する音楽－北アメリカのアジア音楽を考える」	寺田 吉孝
		オセアニア近代史の人類学的研究	吉岡 政徳
		マンデからフルベへ－世界システムと西アフリカ史	竹沢 尚一郎
		バリにおける「内的回心」と儀礼の「説明」	中村 潔
		大学本部と文化科学研究科の動き	長野 泰彦
		「英国議会資料」は世界遺産	川勝 平太
		徳宏タイ族チンポー族自治州におけるタイ族（タイ・ヌー）研究の動向	長谷川 清

民博通信一覧

発行年月	号数	タイトル	執筆者
		研究部の改組にあたって	石毛 直道
		民博の研究部、二四年目の改組－なぜ？そして、どのように？	杉田 繁治
		兵庫県立人と自然の博物館の誕生	大崎 雅一
		ロジャー・グッドマンさん	中牧 弘允
		S・スッバイヤーさん	杉本 良男
		杉田繁治著『コンピュータ民族学』	山田 奨治
		臼杵陽著『見えざるユダヤ人－イスラエルの＜東洋＞』	稲賀 繁美
		周達生著『文化としての食と旅』	竹井 恵美子
		フィールド・ワークとしての展示－特別展「異文化へのまなざし」の記録・抄（上）	吉田 憲司
1998年10月	82	企画展「なかはどうなってるの？」の中はどうなってたの？	森田 恒之
		一九九八年特別展「大モンゴル展－草原の遊牧文明」の生起	小長谷 有紀
		新着資料展示 アンデスの民衆芸術	藤井 龍彦
		「二〇世紀における諸民族文化の伝統と変容」平成九年度の報告	新免 光比呂
		中国大陸諸民族の移住とエスニシティー華南地域を中心とした整理と分析	塚田 誠之
		マルチメディア時代の民族学－凸版印刷株式会社との共同研究について	小山 修三
		「平等・不平等の原理にもとづく社会的共存に関する比較研究」序論	寺嶋 秀明
		千の顔を持つ英雄―西アジアにおけるアレクサンドロス・ロマンス	山中 由里子
		ウケレウェ島滞在記	小森 淳子
		世界の博物館と民博をむすぶ－「博物館学国際協力セミナー」報告	田村 克己

民博通信一覧

発行年月	号数	タイトル	執筆者
1999年1月	83	「聖なるもの」と密教	立川 武蔵
		文と武と－東アジア世界での中国と日本	石毛 直道
		野外博物館の試み－リトルワールドの場合	高橋 貴
		包智明さん	潘 宏立
		田中雅一編『暴力の文化人類学』	冨山 一郎
		佐藤宏之編『ロシア狩猟文化誌』	佐々木 亨
		嶋陸奥彦・朝倉敏夫編『変貌する韓国社会―1970～80年代の人類学調査の現場から』	文 玉杓
		SHAMSUL A. B. and T. UESUGI (eds.) , *Japanese Anthropologists and Malaysian Society:Contrivutions to Malaysian Ethnography* (Senri Ethnological Studies No.48)	モハメド・ユソフ・イスマイル
		フィールド・ワークとしての展示－特別展「異文化へのまなざし」の記録・抄(下)	吉田 憲司
		都市と先住民－文化人類学的研究の開拓前線	青柳 清孝
		ヒマラヤから熱帯高地へ	結城 史隆
		ドイツ便り	山中 由里子
		韓国文化人類学会参加報告	朝倉 敏夫
		メーラ・デーモンからの手紙(上)	山本 泰則
		夏休み子どもワークショップ'98	森田 恒之・佐藤 優香・山本 泰則
1999年3月	84	絵解きの伝統	藤井 龍彦
		移動博物館をめぐって	近藤 雅樹
		金時徳さん	朝倉 敏夫
		バーバラ・S・ガーランさん	大津留 智恵子
		坂本寧男・落合雪野著『アオバナと青花紙－近江特産の植物をめぐって』	松井 健
		新着資料展示　音文化のなかの楽器－アラブ世界から	西尾 哲夫
		祭の過程－石崎奉燈祭の映像取材から	笹原 亮二
		谷口シンポジウム民族学部門「モンゴル研究の地平線－フィールドワークと文献学の出会い」の成果と課題	小長谷 有紀
		地域研究企画交流センターの国際シンポジウム	帯谷 知可
		国際シンポジウム「東南アジアの人口移動：越境・開発・アイデンティティー」	石井 正子
		韓国農村社会における巫俗の現状－京畿道楊州郡の事例	重松 真由美
		セネガル今日このごろ	三島 禎子
		北海道CHAGS8に参加して	野林 厚志
		文部省国際シンポジウム「岐路に立つ狩猟採集社会」開催および参加報告	岸上 伸啓
		「博物館は『文化』のイメージをいかに創りあげてきたか」－文部省国際シンポジウム報告	田村 克己
		JICAの博物館コースとわたし	森田 恒之
		和人を魅了した蝦夷細工－手拭い掛けを例にして	大塚 和義

民博通信一覧

発行年月	号数	タイトル	執筆者
		民博の情報発信を考える	小山 修三
		フクロウ捜し	中西 進
		入館者数から美術館を見ると	宮島 久雄
		北海道立北方民族博物館のこと	岡田 宏明
		清水昭俊編『周辺民族の現在』	佐々木 史郎
		羽場久み子『拡大するヨーロッパ―中欧の模索』	大津留 厚
		「みんぱく電子ガイドシステム」の開発	栗田 靖之
		企画展「南太平洋の文化遺産－ジョージ・ブラウン・コレクション」の報告	石森 秀三
1999年7月	85	エジプト国立レダ民族芸能団のこと	水野 信男
		近代ペルーにおける考古学の消費－国立博物館の誕生と民族の隠蔽	関 雄二
		ウンム・クルスーム研究－序論	水野 信男
		文化科学研究科の動き	長野 泰彦
		1998年秋の北京より（上）	横山 廣子
		南アジアの舞台裏－ネパールとパキスタンの動向	南 真木人
		アイヌからのメッセージ・報告と討論のまとめ（文部省国際シンポジウム「岐路に立つ狩猟採集社会」アイヌセッション2）	大塚 和義
		東南アジア島嶼部における「地域」の再編－国際会議「『東アセアン成長地域』における学術協力－展望と課題」の報告にかえて	上杉 富之
		第14回国際人類学・民族学会議に出席して－ノマディック・ピープルのコミッションの活動から	池谷 和信
		展示批評の必要性	栗田 靖之
		北海道開拓記念館の現状と課題	氏家 等
		スジャータ・パテルさん	押川 文子
		ソロンゴート・ホルツバータルさん	小長谷 有紀
		岸上伸啓著『極北の民　カナダ・イヌイット』	池谷 和信
		Eisei Kurimoto & Simon Simonse (eds.) Conflict, Age and Power in North East Africa: Age Systems in Transition	太田 至
		井口淳子著『中国北方農村の口承文化―語り物の書・テキスト・パフォーマンス』	藤井 麻胡
		春日直樹編『オセアニア・オリエンタリズム』	白川 千尋
1999年10月	86	特別展「大モンゴル展」のモンゴル国における意義	イチンホローギーン・ルハグバスレン
		「20世紀における諸民族文化の伝統と変容」平成10年度の報告	新免 光比呂
		谷口財団文明学部門第17回国際シンポジウム「近代世界における日本文明－コレクションの比較文明学」	吉田 憲司
		国家と民族集団・第3回国際シンポジウム「空転する近代－南アジアにおける歴史の『捏造』と政治的動員」	押川 文子
		第5回文部省国際地域研究集会「アメリカにおける公共性」	大津留（北川）智恵子
		イヌイットの青年・中年男性の生業離れについて：カナダ・ヌナヴィクのアクリヴィク村の事例を中心に	岸上 伸啓
		1998年秋の北京より（下）	横山 廣子
		ブリンダのこと	寺田 吉孝
		国際狩猟採集民会議　青森シンポジウム「躍動する狩猟採集文化－北太平洋のなかの三内丸山遺跡」	佐々木 史郎

民博通信一覧

発行年月	号数	タイトル	執筆者
2000年1月	87	オリジナリティとフィクション	石毛 直道
		マイナス50℃の防寒対策（上）	佐々木 史郎
		国際関係・地域情報システムの射程－台湾大地震と東アジアの平和構築を事例として	山本 匡
		ママドゥ・シセさん	三島 禎子
		ロベルト・ガルフィアスさん	寺田 吉孝
		ガネッシュ・マン・グルンさん	南 真木人
		杉島敬志編『土地所有の政治史－人類学的視点』	宮崎 広和
		森明子著『土地を読みかえる家族－オーストリア・ケルンテンの歴史民族誌』	川北 稔
		特別展示「越境する民族文化」－言語コーナー「多言語化する日本社会」	庄司 博史
		スターウォーズ－南インド、スター政治家ライバル物語	杉本 良男
		韓国におけるモンゴル展	小長谷 有紀
		文部省COEシンポジウム「チベット文化域におけるポン教文化」	長野 泰彦
		「認知と実践－人類学的アプローチ」	田邉 繁治
		人類学の解釈学的転回	杉島 敬志
		ヘリテージ・ツーリズムとしての伝統的集落観光	西山 徳明
		欧州イラン学会第4回大会参加記	山中 由里子
2000年3月	88	国立民族学博物館よどこへ行く！！	杉田 繁治
		ミュージアム・ショップの考現学	篠原 徹
		マイナス50℃の防寒対策（下）	佐々木 史郎
		アールティ・カウルラさん	杉本 良男
		佐藤浩司編『シリーズ建築人類学－世界の住まいを読む』（全4巻）	杉本 尚次
		出口顯著『誕生のジェネオロジー－人工生殖と自然らしさ』	上杉 富之
		ジェイムス・ヒューストン著・小林正佳訳『北極で暮らした日々－イヌイット美術を世界に紹介した男の回想』	岸上 伸啓
		新着資料展示「農村の暮らしと信仰－ルーマニアにおける宗教文化」	新免 光比呂
		「みんぱく」移動博物館を実施して	近藤 雅樹
		重点研究プロジェクトの発足	端 信行
		北方先住民社会における交易	大塚 和義
		ラテン音楽の変容と伝播	ロベルト・ガルフィアス
		知命の年の異国体験	八杉 佳穂

民博通信一覧

発行年月	号数	タイトル	執筆者
2000年7月	89	グローバル・イッシューと現地研究拠点	松原 正毅
		広西壮族自治区博物館	呉 偉峰
		京大に総合博物館ができた	瀬戸口 烈司
		ウド・バークマンさん	小長谷 有紀
		栗本英世著『未開の戦争、現代の戦争』	田中 雅一
		熊倉功夫著『文化としてのマナー』	黒田 悦子
		臼杵陽著『原理主義』	近藤 光博
		書評リプライ　カナダ極北社会における社会変化と実践	岸上 伸啓
		エイサー－関西に根づいた沖縄芸能	寺田 吉孝
		第10回コンピュータ将棋選手権に参加して	篠原 拓嗣
		文化科学研究科の動き	長野 泰彦
		アフリカの子供たちの笑顔に魅せられて	牛島 彰子
		大英博物館とイーストアングリア大学セインズベリー美術館の教育活動－イギリス出張報告	浦野 民子
		A君への手紙	齋藤 晃
		「夏休み子どもワークショップ　'99」の舞台裏	山本 泰則
		観客動員と平成11年度の冬休みイベント	小山 修三
2000年10月	90	水産研修セミナーと海外拠点	秋道 智彌
		物語る博物館―全米日系人の博物館のボランティア女性	大津留（北川）智恵子
		日本初の公立楽器博物館として－浜松市楽器博物館5年の試み	嶋 和彦
		ティラユット・ブンミーさん	田邉 繁治
		アンドリュー・ストラサーンさん	林 勲男
		ルイス・ミリョネスさん	藤井 龍彦
		山本紀夫・稲村哲也編著『ヒマラヤの環境誌－山岳地域の自然とシェルパの世界』	高山 龍三・坂本 寧男・小疇 尚
		特別展「越境する民族文化」をふりかえって	中牧 弘允
		重点研究研究集会「アジア・オセアニアに関する戦時日本の人類学」	清水 昭俊
		重点研究プレシンポジウム「グローバル時代のトランス・ボーダーの諸相」	庄司 博史
		重点研究シンポジウム「アートと民族文化の表象－特別展『越境する民族文化』を中心に」	中牧 弘允
		重点研究シンポジウム「日本における韓国文化の表象」	朝倉 敏夫
		「20世紀における諸民族文化の伝統と変容」平成11年度の報告	新免 光比呂
		音楽の概念と行動の比較研究	櫻井 哲男
		現代中国における毛沢東の意味とその操作　－毛沢東の故郷、韶山の観光化に基づいて	韓 敏
		済州島をあるく	落合 雪野
		「費孝通教授90歳祝賀行事」と第6回「近代化と中国文化シンポジウム」	横山 廣子
		ベトナムでの博物館セミナーを終えて－博物館学の国際協力	園田 直子

民博通信一覧

発行年月	号数	タイトル	執筆者
2001年2月	91	国内資料調査委員会	藤井 龍彦
		東南アジアにおける海洋資源の管理―南タイのフィールドから	田和 正孝
		カムチャツカ先住民によるサケ資源の利用と管理	大島 稔
		ウィーラ・オスタピラートさん	長野 泰彦
		上杉富之著『贈与交換の民族誌―ボルネオ・ムルット社会の親族と祭宴関係のネットワーク』	津上 誠
		吉田憲司著『文化の「発見」―驚異の部屋からヴァーチャル・ミュージアムまで』	出利葉 浩司
		小山修三・岡田康博著『縄文時代の商人たち―日本列島と北東アジアを交易した人びと』	金子 裕之
		企画展「みんぱくミュージアム劇場―からだは表現する」をふりかえって	野村 雅一
		デジタルミュージアムのプロトタイプの研究	八重樫 純樹
		「女の城塞（バンティ・スレイ）」に行く	平井 京之介
		ドイツのエキスポ2000とアフリカパビリオン	池谷 和信
		国際人類学・民族学連合会2000年北京中間会議参加報告	韓 敏
2001年3月	92	外部評価ということ	長野 泰彦
		人々に喜ばれる施設であるために ― みやざき歴史文化館の取り組み	待木 順一
		曹大峰さん	横山 廣子
		鄧暁華さん	潘 宏立
		栗本英世・井野瀬久美恵編『植民地経験 ― 人類学と歴史学からのアプローチ』	永原 陽子
		カンボジアの伝統芸能	福岡 正太
		特別展示「進化する映像」	大森 康宏
		現代の東北アジア諸民族の文化変化に関する研究	煎本 孝
		平等・不平等と人間社会	寺嶋 秀明
		デジタルミュージアムとデジタルアーカイブ	八村 広三郎
		ミクロネシア研究への視点	印東 道子
		イメージの中の漁民 ― ある海外ドキュメンタリー番組の分析	飯田 卓
		スフの私設レーニン博物館	帯谷 知可
		国際人類学術会議「21世紀における人類の生存発展」について	鄧 暁華

民博通信一覧

発行年月	号数	タイトル	執筆者
2001年7月	93	みんぱく展示場での表記言語について	庄司 博史
		文化の混淆・構築・脱構築 ― スペイン、メキシコ、アメリカ合衆国のフィールドに観る文化と個人	黒田 悦子
		大林先生のこと	横山 廣子
		大林学のなかの文化クラスター	秋道 智彌
		魅力ある博物館をめざして ― たばこと塩の博物館の歩みとこれから	榊 玲子
		新しい文化施設の試み ― 徳島県文化の森総合公園	天羽 利夫
		ビクター・シュニレルマンさん	岸上 伸啓
		王向華さん	中牧 弘允
		ヨーゼフ・クライナー著『阿蘇に見た日本 ― ヨーロッパの日本研究とヴィーン大学阿蘇調査』(一の宮町史、自然と文化 阿蘇選書12)	小山 修三
		特別展示「進化する映像」その二	大森 康宏
		企画展「大正昭和くらしの博物誌 ― 民族学の父・渋沢敬三とアチック・ミューゼアム」	近藤 雅樹
		重点研究プロジェクト「トランス・ボーダー・コンフリクト」平成12年度シンポジウム「紛争の海 ― 北と南の水産資源とその管理をめぐって」	秋道 智彌
		重点研究プロジェクト「人類学的歴史像の構築」平成12年度シンポジウム『東アジア・北太平洋地域の狩猟採集文化研究の新たなパースペクティブ	佐々木 史郎
		新生殖技術時代の人類学	上杉 富之
		根栽農耕二類型論の試み	吉田 集而
		バリ研究との関わり	永渕 康之
		多元的歴史叙述をめざして	加藤 博
		カレンの民族舞踊コンテスト	加藤 昌彦
		セネガルのガラス絵「スウエール」	三島 禎子
		ある女性の暮らしと生活の品々 ― 故大村しげ氏の寄贈資料の収集と整理を巡って	笹原 亮二
2001年10月	94	「第二期展示構想」について	栗田 靖之
		遙かなるオーストロネジアン	崎山 理
		「20世紀研究」を終えて	端 信行
		民博創設までのウラの歴史 ― 朝鮮半島展示解説を中心にした記録	祖父江 孝男
		サムアン・サムさん	寺田 吉孝
		オセアニア常設展示リニューアル「先住民の文化運動」の展示をめぐって ― その一	林 勲男
		少数民族と法制度に関する比較研究	横山 廣子
		「民族音楽学の再構築」「民族音楽学の課題と方法」	水野 信男
		＜都市的なるもの＞とは何か？	関根 康正
		合気道のフィールドから	広瀬 浩二郎
		マレーシアにおけるイスラーム行政制度の現状	多和田 裕司
		オセアニアの「売り」と人類学的姿勢	吉岡 政徳
		総合研究大学院大学　文化科学研究科の動き	田村 克己
		前略　A君お元気ですか。	野林 厚志

民博通信一覧

発行年月	号数	タイトル	執筆者
2002年2月	95	今、民族学博物館に何が求められているのか	久保 正敏
		(財)横浜市ふるさと歴史財団の危機管理マニュアル	岸上 興一郎
		朴昊遠さん	朝倉 敏夫
		マーティン・コルカットさん	熊倉 功夫
		梅棹忠夫・吉田集而編『酒と日本文明』	高田 公理
		塚田誠之著『壮族社会史研究 ― 明清時代を中心として』	菊池 秀明
		和田正平編著『現代アフリカの民族関係』	小田 英郎
		オセアニア常設展示リニューアル「先住民の文化運動」の展示をめぐって ― その二	林 勲男
		ヨーロッパ人類学の可能性	森 明子
		現代アフリカにおける社会変容と文化運動の比較民族学的研究	端 信行
		黒タイの伝統的政治体系 ― ベトナム・ギアロ調査より	樫永 真佐夫
		歴史教科書の記述は正しいか― アンデスの農耕文化をめぐって(上)	山本 紀夫
2002年3月	96	海外に日本文化博物館を	石毛 直道
		「9.11」以降を中東地域研究者として思う	臼杵 陽
		中国の食生活と文化	賣 惠萱
		14世紀アムールランドのそりと履板	中村 和之
		雪国にある二つのアマゾン博物館 ― レヴィ・ストロースに魅せられて	山口 吉彦
		地域のあるべき博物館をめざして ― 松本市立博物館の最近の取り組みから	竹原 学
		ジェームズ・サベールさん	岸上 伸啓
		新着資料展示　クメール文化の華 ― カンボジアの音楽と芸能	福岡 正太
		国立民族学博物館公開講演会「民族学と現代 ― 凝集する民族・拡散する民族」	石毛 直道・栗田 靖之・朝倉 敏夫
		重点研究プロジェクト「人類学的歴史像の構築」― 平成13年度シンポジウム「歴史叙述の現在 ― 歴史学と人類学の対話」	森 明子
		新しいアフリカ像を求めて	竹沢 尚一郎
		死者は不浄か	立川 武蔵
		国立民族学博物館におけるアイヌ外来研究員受け入れについて	大塚 和義
		歴史教科書の記述は正しいか― アンデスの農耕文化をめぐって(下)	山本 紀夫
2002年6月	97	歴史の木理(きめ)に抗して	齋藤 晃
		孔雀舞―創作された「民族文化」	長谷川 清
		まなざしの交錯をときほぐす	吉田 憲司
		「中西コレクション」その後	崎山 理
		拡張するデルタ世界―ベトナム西北地方フーイエン紀行	樫永 真佐夫

民博通信一覧

発行年月	号数	タイトル	執筆者
2002年9月	98	地球環境問題への挑戦	池谷 和信
		地上の批判から天上の批判へ	杉本 良男
		歴史が人類学に問いかけるもの	佐々木 史郎
		口蹄疫対策と動物の権利	野林 厚志
		演じられる人種、ジェンダー、セクシュアリティー――ニューヨークのアジア系アメリカ演劇から	寺田 吉孝
2002年12月	99	性を問う／性から問う	宇田川 妙子
		情報通信技術を博物館展示に応用する	杉田 繁治
		顔とはなんなのか	野村 雅一
		東南アジア人類学の新しい拠点―タイ、バンコクのシリントーン人類学センター	田辺 繁治
		豊かにして勇敢なるバイスン―エンヴェル・パシャの足跡を求めて	帯谷 知可
2003年3月	100	アラビアンナイト学への招待	西尾 哲夫
		21世紀の環境保全型経済を構築する	小長谷 有紀
		民芸思想の可能性	熊倉 功夫
		狩猟採集民研究は、人類学理論にいかに貢献できるか―第9回国際狩猟採集社会会議に参加して	池谷 和信
		生成途中の伝統―アメリカのハロウィーン	韓 敏
2003年6月	101	モノ世界のフィールドワーク	横川 公子
		社会変革とのつながりを目指して	横山 廣子
		越境する島嶼研究	印東 道子
		ヤミ文化研究を地域へ還元するために―公開フォーラム「YAMI文化研究の1世紀」に参加して	野林 厚志
		僧の一日―ラオス国ヴィエンチャン郊外の僧院にて	平井 京之介
2003年9月	102	マスメディア社会に向き合う人類学	飯田 卓
		文化遺産をめぐるホストとゲストの持続可能な関係とは	西山 徳明
		開発経済学と地域研究の対話	押川 文子
		ロシアの蝋管―先住民族の音の文化の軌跡	谷本 一之
		おいしい調査、あるいはデリシャスなリサーチ！？	廣瀬 浩二郎
2003年12月	103	トランスボーダーの人類学	庄司 博史
		水産資源の持続的利用をめざして	岸上 伸啓
		インドの新しい都市祭礼の背景	三尾 稔
		21世紀の中国に関する人類学的研究の回顧と展望―中国・アメリカ・日本のパースペクティブ	韓 敏
		ドイツ民族学博物館紀行―ヨーロッパの中枢から	佐々木 史郎

民博通信一覧

発行年月	号数	タイトル	執筆者
2004年3月	104	ミュージアムと民族学をつなぐもの	竹沢 尚一郎
		学びの場としての民博の可能性	森茂 岳雄
		外地録音の目録作り	細川 周平
		ベトナム・タイ学プログラム	樫永 真佐夫
		都市と訪問者―集合住宅の不安	森 明子
2004年6月	105	白人と白人性	藤川 隆男
		社会がつくりだす災害、災害がつくりだす文化	林 勲男
		「周縁を生きる人びと」についての人類学的研究	信田 敏宏
		牧畜民研究の新たな展開を求めて―第15回国際人類学・民族学会議	池谷 和信
		台所から社会が見える―イスラエル・ハイファのアラブ人居住地区にて	菅瀬 晶子
2004年9月	106	民俗書誌論へのいざない	笹原 亮二
		埋蔵量の多い研究領域（NPO,NGO研究）から生まれた言政学	出口 正之
		地球市民の先駆か、世界の孤児か	陳 天璽
		開発援助と人類学―デンマークとスウェーデンの場合	岸上 伸啓
		壮族の歌祭り	塚田 誠之
2004年12月	107	ひとにものに自然にやさしい虫害管理―ポスト2004年の博物館	園田 直子
		チベット仏教の仏画粉本にみる幾何学的描画法	小林 繁樹
		政党なき政治の行方	村上 勇介
		日本文化人類学会の最初の研究大会に参加して	中牧 弘允
		ある若者の夢―トルコ・イスタンブルの民謡バーより	米山 知子
2005年3月	108	文化遺産とミュージアム	吉田 憲司
		マヤ文字研究の未来に向けて	八杉 佳穂
		食料の安全保障とは	ピーター J. マシウス
		トルコの EU加盟	松原 正毅
		エストニアの欧州懐疑主義の正体	小森 宏美
2005年6月	109	マルチな暦を生きる－カレンダーにみる在日外国人のくらし	中牧 弘允
		山岳人類学への道	山本 紀夫
		「拡大」から「脱構築」へ	朝倉 敏夫
		研究戦略センターの研究動向調査	信田 敏宏
		よびおこされる底辺の記憶－フランス海外県・レユニオン島	飯田 卓

民博通信一覧

発行年月	号数	タイトル	執筆者
2005年9月	110	災害人類学を考える－災害と文化	林 勲男
		「アムピヤク・アルゴドン森林保全・利用モザイク」の協治をめぐる対立	ウィル・デ・ヨン
		「文明」の交わりの場における人びとの区切りと繋がり	山本 博之
		ラピタ文化とオセアニア研究	印東 道子
		すべての道はローマに通ず？～移民・越境・ヴァチカン～	陳 天璽
2005年12月	111	音楽する身体	山田 陽一
		東南アジア大陸部の書承文化	樫永 真佐夫
		マダガスカルへの人の移動、マダガスカルでの人の移動――比較（歴史）言語学の視点から	菊澤 律子
		民博の民族学研究アーカイブズ	久保 正敏
		漂海民の末裔たちが生きる海――ボルネオ島センポルナ半島より	小野 林太郎
2006年3月	112	フィールドとしての開発援助	鈴木 紀
		伝統の継承、創造の研究と映像記録の活用	福岡 正太
		近代史のとらえなおし	川口 幸也
		テクストの物質文化研究――国際研究集会「物質文化と知識の創造」に参加して	齋藤 晃
		「コレ」する？される？――トンガで幼稚園長になる	森本 利恵
2006年6月	113	寡婦の現在（いま）	松園 万亀雄
		「里海」保全の可能性	松本 博之
		マラリア対策と文化人類学	白川 千尋
		知られざるアフリカの過去への探求――第12回パンアフリカ考古学会議	池谷 和信
		サラエボと劣化ウラン弾――マルチなカレンダーを生きる陰で	新免 光比呂
2006年9月	114	革命の実践と表象	韓 敏
		見直される日本人人類学のポジショナリティ	岡田 浩樹
		21世紀のミュージアム――ケ・ブランリー博物館の挑戦	大森 康宏
		海南「極」小記	笹原 亮二
2006年12月	115	人類学的比較とは？	出口 顯
		帝国研究への視座	関 雄二
		中国の環境政策「生態移民」を検討する	小長谷 有紀
		ヨーロッパの言語・文化的多様性をめぐる動き――EURAC の活動紹介	小森 宏美
		アズハル大学に学ぶフィリピンのイスラム教徒――エジプト・カイロより	石井 正子
2007年3月	116	ストリートの人類学	関根 康正
		写本の楽しみ	佐々木 利和
		「血縁」から「家」の原理へ	小池 誠
		民博によみがえった南米のバロック音楽	山本 紀夫
		真夏のメルヘン	山中 由里子

民博通信一覧

発行年月	号数	タイトル	執筆者
2007年6月	117	先住民と開発	岸上 伸啓
		現代の神話を追求する	日置 弘一郎
		世界動物考古学会議研究大会（ICAZ2006）に参加して	野林 厚志
		パプアニューギニア、ニューアイルランド島の「混血チャイニーズ」	市川 哲
2007年9月	118	海外コリアンはどう暮らす	朝倉 敏夫
		インドの都市社会の変貌	三尾 稔
		人はなぜ移動するのか	三島 禎子
		パイオニア人類学者が撮影した現地写真の保存・公開 ―ネパール写真データベース	南 真木人
		自己を生かすために取り込む非自己 ―サンフランシスコ日本町の朝鮮半島出身者をめぐる高齢者福祉事情	小谷 幸子
2007年12月	119	観光は遺産を救えるか	西山 徳明
		市民社会の人類学に向けて	柄木田 康之
		国際的研究協力システムの構築	吉田 憲司
		マックス・プランク研究所（社会人類学部門）を訪ねて	池谷 和信
		言語学オリンピックin ライデン －オランダより	菊澤 律子
2008年3月	120	伝統芸能を映像で記録する	福岡 正太
		新たな開発教育学の構想	阿久津 昌三
		揺らぐ人々のビボットを追う	鈴木 七美
		フランスの人間科学館との研究協力	齋藤 晃
		よみがえった武人の霊 ―インド・ウダイプルにおける共同性の変容	三尾 稔
2008年6月	121	接合と連帯の人類学	森 明子
		ログフレームの視野を拡張する	鈴木 紀
		両班異伝	太田 心平
		ザンビアで開催した博物館学集中コースのフォローアップ研修	日髙 真吾
		25年のフィールドワーク―西アフリカ、マリ、ニジェール河のほとりで	竹沢 尚一郎
2008年9月	122	マオイスト運動の人類学	南 真木人
		多様性のホットスポット	飯田 卓
		かつて開発モデルと語られし村	丹羽 典生
		第7回ロシア民族学者・人類学者会議	佐々 木史郎
		中国雲南省ナシ族のワインに魅せられて	岡 晋

民博通信一覧

発行年月	号数	タイトル	執筆者
2008年12月	123	生業と生産の社会的布置からのアプローチ	松井 健
		オンライン／オフラインの共同体　共同研究：地域SNSを活用した新しい地域コミュニティの構築に関する研究	杉本 星子
		ものづくり研究における素材、道具、技術　各個研究：ラクダ牧畜社会のものづくり研究	上羽 陽子
		旅のはじまり―文化資源をめぐる連続フォーラムを終えて	川口 幸也
		フェアトレード・チョコレートをたどる旅	鈴木 紀
2009年3月	124	国籍とパスポートの人類学	陳 天璽
		アラビアンナイトとオリエンタリズム	西尾 哲夫
		みんぱくにおける実践人類学の展開	岸上 伸啓
		国際協力のための実践人類学ワークショップ	鈴木 紀
		村上春樹とルーマニア社会―ブカレスト大学日本語学科にて	新免 光比呂
2009年6月	125	2007	小長谷 有紀
		文化から政策へ	松岡 悦子
		政治的アイデンティティとしての先住民	太田 好信
		ハーバード大学社会人類学の歴史	平井 京之介
		スンバ島で家屋を建てる	佐藤 浩司
2009年9月	126	国境の人びと	塚田 誠之
		「心地よい生」を考える	鈴木 七美
		アイヌの声のアーカイブへ	中川 裕
		フランス人間科学館（MSH）の日本プログラム	中牧 弘允
		海馬島そしてドイツ	佐々木 利和
2009年12月	127	人類学とキリスト教	杉本 良男
		日本の移民言語と多言語化	庄司 博史
		アートの「発見」から商品化まで	齋藤 玲子
		国際会議「グローバリゼーション―文化、制度、社会経済」に参加して	市川 哲
		70 年をつなぐモノ　―蔚山コレクション	朝倉 敏夫
2010年3月	128	植民地時代の日本人類学	山路 勝彦
		「平和の人類学」を構想する	小田 博志
		変貌するインドの都市を多角的にとらえる	三尾 稔
		国際人類学・民族学連合IUAES2009第16回昆明大会の参加報告	韓 敏
		ペルーの鳥居龍蔵を追って―2人の考古学者との出会い	関 雄二

民博通信一覧

発行年月	号数	タイトル	執筆者
2010年9月	129	みんぱく2010――『民博通信』の改訂によせて	須藤 健一
		包摂とグローバルな互恵性	鈴木 紀
		アイデンティフィケーションの力学	陳 天璽
		ICTネットワーキングのエスノグラフィに向けて	杉本 星子
		民俗資料の保存を考える	日髙 真吾
		「政治的アイデンティティ」によって解明されるパワーとアイデンティティ	太田 好信
		中国のグローカル化の人類学的研究	韓 敏
		世界の捕鯨を再考する	岸上 伸啓
		なぜマイノリティは音楽に関わるのか	寺田 吉孝
		先史人類の移動を追う	印東 道子
		三千里の道も一歩より	朝倉 敏夫
		オルタナティブ・ジャスティス―法と社会の新たなパラダイム	石田 慎一郎
		アイヌ民族の展示改革への挑戦	スチュアート　ヘンリ
2010年10月	130	フィールドワークという経験	樫永 真佐夫
		モノの崇拝の現在	竹沢 尚一郎
		細部に宿る神々の闘争	杉本 良男
		聖空間としての会社、都市、聖地の経営	中牧 弘允
		日本人類学の歴史：回顧と展望	山路 勝彦
		フィールドを越えた人の移動をどう捉えるか	市川 哲
		版画による先住民族芸術の普及とその後	齋藤 玲子
		「仕事の人類学」が拓く地平	中谷 文美
		公定多文化主義から日常多文化主義へ	関根 政美
		ポスト社会主義からの脱却：地域再統合・文化復興・経済成長	佐々木 史郎
		「平和の人類学」を実践する	小田 博志
		ケアの歴史人類学：生きる時空間と人生の渡りの探求	鈴木 七美
		フェアトレードの思想的背景	鈴木 紀

民博通信一覧

発行年月	号数	タイトル	執筆者
2010年12月	131	他者の幻想、自己の内観 ――驚異譚をめぐる比較研究	山中 由里子
		“何か”「まだ、はっきりとはつかめないけれど…」	西 洋子
		人類学から「リスク社会」を再考する	東 賢太朗
		生の複雑性を記述する	小田 亮・内藤 順子
		外国語から移民言語へ	庄司 博史
		造り物研究の「現在」	福原 敏男
		リプロダクションの自然／文化／人工	松岡 悦子
		世界のことばの系統関係とその理論的背景を考える	菊澤 律子
		オセアニアの紛争研究事始め	丹羽 典生
		生老病死の現場に向き合う専門家との対話の地平	浮ヶ谷 幸代
		プラント・マテリアル――その外見的変化と意味的変容	落合 雪野
		公共的連帯に向けたデモクラシーを構想する	真崎 克彦
		映像人類学の新たな課題――方法論から認識論へ	村尾 静二
2011年3月	132	「環流」する「インド文化」 ――グローバル化する地域文化への視点	三尾　稔
		アジア・アフリカの視野で日本の「近代化」を見直す	川田 順造
		外から見た日本	桑山 敬己
		新しい家族研究を求めて	小池 誠
		すでにそこにある場所をめざして	堀内 正樹
		「ミラビリア」と「アジャーイブ」をつなぐもの	山中 由里子
		知の実践の「かたち」を問う学史へ	重信 幸彦
		中国における諸民族の文化資源を考える	塚田 誠之
		社会の「外部」空間の位相をどのように捉えるか	内藤 直樹
		交錯する態度に臨む	岩佐 光広
		社会主義をへた宗教復興のゆくえ	藤本 透子
		織機と織物と織り技術	吉本　忍
		映像を通して見るイスラームの境界領域	吉本 康子

民博通信一覧

発行年月	号数	タイトル	執筆者
2011年6月	133	新しい人文学の創成を目指して ――民博の改組と人間文化研究機構のこれから	長野 泰彦
		布と人の人類学を構想する	関本 照夫
		第四世界的状況と「真正性の水準」	小田　亮
		ポスト社会主義以後のユーラシア―旧ソ連型社会主義地域は一つの研究対象になりうるか	佐々木 史郎
		日本列島への先史人類の移動と拡散	印東 道子
		音楽のパフォーマティヴな実践と公共性	寺田 吉孝
		フォーラムとしての「平和の人類学」	小田 博志
		高齢者のウェルビーイングとライフデザインの協働	鈴木 七美
		フェアトレードを可視化する――コーヒーとカカオの生産現場から	鈴木 紀
		「リスク」とどう向き合うか	碇 陽子
		グローカル化の中の中国社会	韓 敏
		「組み合わせ」の技法――オランダ流ワークライフバランスとは	中谷 文美
		北を見ると南も見える	朝倉 敏夫
2011年9月	134	フォーラム化する文化人類学 ――大学共同利用機関としての国立民族博物館が果たすべき役割を考える	佐々木 史郎
		国家統制と共同体自治	齋藤 晃
		プラント・マテリアル―― 植物からモノまでのプロセス	落合 雪野
		産むのも育てるのも大変 ――インドネシア・ジャワ島の近代化とリプロダクション	松岡 悦子
		身体に媒介されたエートスや暴力から〈紛争〉を捉える視点の可能性へ	丹羽 典生
		もうひとつの森――“モノ”と“モノ語り”をつなぐ場所	西 洋子
		近代システムの専門分化が生み出すサファリングとケア	浮ヶ谷 幸代
		2011年度人形造り物セッション	真崎 克彦
		フィールドワークのなかの映像制作	村尾 静二
		「自由」への人類学的接近：サバルタン研究をこえて	内藤 直樹
		ことばの系統や言語変化の理解にむけた新しい方法論の可能性	菊澤 律子

民博通信一覧

発行年月	号数	タイトル	執筆者
2011年12月	135	東日本大震災における被災文化財の救援の現場から――有形民俗文化財の支援を中心に	日高 真吾
		現代インドネシア社会から考える家族研究	小池 誠
		ドイツにおける移民のための統合コース	平高 史也
		「非境界」という種子は芽を出すか	堀内 正樹
		「東アジアの一国としての日本」は可能か？	川田 順造
		女性・沖縄・捕鯨：欧米人類学者の日本を見る眼	桑山 敬己
		ミンゾクガクシャとしての新村出、あるいは、京都で読む民俗学史／人類学史	菊地 暁
		フィールド・ワークの記録を解凍し、牧畜研究の地平線を開拓する	小長谷 有紀
		紛争を乗り越えて、明日へ向かうために	菅瀬 晶子
		ライフサイクルと身分証明	川村 千鶴子
		NGOの人類学――新たなフィールドを求めて	信田 敏宏
		家族的類似としての「イスラーム」、映像による地域間比較の可能性	吉本 康子
		応答性は人間の「本性」か	岩佐 光広
		宗教が再編していく地域社会	藤本 透子
2012年3月	136	経験を受け継ぐということ―マダガスカルの漁村から	飯田 卓
		「支援の人類学」の再提示：東日本大震災を経験して	鈴木 紀
		生への関心と養生の展開	鈴木 七美
		災害、記憶、写真―回収されることを拒む記憶たち	竹沢 尚一郎
		中国における民族文化の資源化とポリティクスに関する中間報告	塚田 誠之
		驚異のトポス	山中 由里子
		「感情」への接近：「ありのまま」のリアリティ	関根 久雄
		人類学がとりくむべき物質性とは何か	古谷 嘉章
		ストリート人類学の第2 ラウンド	関根 康正
		「包摂」からネパールを、ネパールから「包摂」を再考する	名和 克郎
		南アジアにおけるグローバリゼーションの作用を芸能にみる	松川 恭子
		「子どものいのち」の理解に向けて	道信 良子
		レコードが語る声の歴史	劉 麟玉
		第2世代以降の移民の生活世界から「帰還」、「故郷」を再考する	奈倉 京子

民博通信一覧

発行年月	号数	タイトル	執筆者
2012年6月	137	使い捨て文化の裏側から新たな消費文化論へ ―アフリカにおける中古・非正規衣料品の流通・消費から	小川 さやか
		家族・民族・国家のディスコース ―社会の連続性と非連続性を作りだす仕組み	韓 敏
		二兎を追う	朝倉 敏夫
		時事性と民族誌、そしてメラネシア問題へのアプローチ	丹羽 典生
		サファリングは創造性の源泉たりうるか？	浮ヶ谷 幸代
		プラント・マテリアル―創出される評価とやりとりの諸相	落合 雪野
		技術映像からみる「共有」	中村 真里絵
		態度と応答の双方向的回路を開く	岩佐 光広
		映像だからこそ可能になる研究とは	吉本 康子
		体験を経験に昇華させる方法	橋本 裕之
		宗教が再構築されるメカニズムとは？	藤本 透子
2012年9月	138	機関研究のアウトリーチ―みんぱくワールドシネマの試み	鈴木 紀
		21世紀の民族学博物館の行方	佐々木 史郎
		国際共同研究の枠組みの構築	齋藤 晃
		捨てるもの、捨てられないもの―国際ワークショップから	関本 照夫
		悩ましい「系統図」という存在	菊澤 律子
		「家族」と「世帯」のあいだ	久保田 裕之
		移民の識字問題―多言語サービス、日本語指導、母語教育、そして？	庄司 博史
		あらためて、東アジアの一部としての日本を問う	川田 順造
		1930 年代の地方民俗学雑誌の実践―高橋勝利の『芳賀郡土俗研究会報』	久野 俊彦
		民主主義観の書き換えの展望を探る―ブータンを事例として	真崎 克彦
		日本における身分証明書の制度と機能	大西 広之
		新たなパレスチナ・イスラエル紛争論を模索する	菅瀬 晶子

民博通信一覧

発行年月	号数	タイトル	執筆者
2012年12月	139	研究公演『ホピの踊りと音楽』の交渉過程で得られた民族誌的知見	伊藤 敦規
		「非中心性」と「非拘束性」	堀内 正樹
		第2 次世界大戦前後のアメリカ人研究者による日本村落の研究	桑山 敬己
		NGO活動が宗教の壁を越える―タイ、パキスタン、日本における支援の現場から	信田 敏宏
		放射能と「周辺地域の知恵」	トム・ギル
		子どものいのち、そのとらえ方とかかわり方	道信 良子
		「狩猟採集民」からみた新たな地球環境史	池谷 和信
		なぜ人は他の人にモノを与えるのか？	岸上 伸啓
		人間はなぜ肉食を行うのかを考える	野林 厚志
		ゴミと物質性	古谷 嘉章
		個人の「帰還」体験からみる国家・国民の両義性	奈倉 京子
		環流プロセスにおいて変容する芸能と新たなフローの生成	松川 恭子
2013年3月	140	フォーラムとしてのミュージアム、その後	吉田 憲司
		民族学博物館の危機	竹沢 尚一郎
		人類学的支援とは	鈴木 紀
		養生と共生の軌跡	鈴木 七美
		海民社会の人類史―その歴史性、普遍性、地域性を探る	小野 林太郎
		「包摂」問題のネパール民族誌への包摂に向けて	名和 克郎
		感情経験・感情文化・「怒り」の管理	関根 久雄
		驚異を「見る」	山中 由里子
		日本コロムビアの歴史と共に歩んだ植民地台湾のレコード産業	劉 麟玉
		中国における民族文化の資源化とポリティクスの諸相	塚田 誠之
		梅棹スケッチ原画の底本をつくる	小長谷 有紀
		景観人類学の新たな可能性を探る	河合 洋尚

民博通信一覧

発行年月	号数	タイトル	執筆者
2013年6月	141	アーカイブ映像の創造的活用にむけて ―エンサイクロペディア・シネマトグラ フィカを事例に―	川瀬 慈
		中国における社会と民族のパラダイム ―人類学的枠組みと事例研究	韓 敏
		文化遺産を受け継ぐコミュニティのあたらしいかたち	飯田 卓
		手話は言語である」の一歩先へ	菊澤 律子
		生活実践からみる「統制」、そして公共性	土佐 桂子
		さわる展示」の深化と応用1 ―高等教育のユニバーサル化をめざして―	広瀬 浩二郎
		日本北部周辺の先住民族資料の理解のために	齋藤 玲子
		現代消費文化を捉える人類学的視点の探求	小川 さやか
		多面的な事実と創られ続ける過去 ―インドネシアの国家英雄をめぐるおもしろさ	金子 正徳・津田 浩司
		生をつなぐ家―親族研究の新たな地平	小池 誠
		現代オセアニアの＜紛争＞ ―脱植民地期以降のフィールドから	丹羽 典生
2013年9月	142	みんぱく若手研究者奨励セミナー	平井 京之介
		民族学資料の保存と修復―博物館バックヤード の利用効率向上と自然素材資料の修復	佐々木 史郎
		被災地でなぜ祭りや民俗芸能が必要だったのか？ ―2012 年度の共同研究活動報告を兼ねて―	政岡 伸洋
		イギリス委任統治時代の再考へ向けて	菅瀬 晶子
		放射能汚染社会におけるストリート人類学	関根 康正
		移動から見た身分証明書の社会的意味	佐々木 てる
		石器や土器の物質性、からだの物質性、見えな いものの物質性	古谷 嘉章
		PROJECT グローバル化のなかの国家・民族	川田 順造
		キーワードでつづる在日朝鮮人と朝鮮語	宋　実成
		台湾のインドネシア人介護／家事労働者から考 える世帯と家族	小池 誠
		世界の織機と織物	吉本 忍
		オセアニアと公共圏 ―フィールドワークから見た重層性	柄木田 康之・須藤 健一編
		The Anthropology of Europe as Seen from Japan: Considering Contemporary Forms and Meanings of the Social	Akiko Mori (ed.)

民博通信一覧

発行年月	号数	タイトル	執筆者
2013年12月	143	文化人類学の輝きをもとめて	小長谷 有紀
		集住政策はアメリカをどう変えたのか？	齋藤 晃
		狩猟採集民族研究の新たな可能性を問う一第10回国際狩猟採集社会会議に参加して	池谷 和信
		北アメリカ先住民の事例からモースの『贈与論』を再考する	岸上 伸啓
		肉食の生態学的側面と文化的側面	野林 厚志
		グローバル支援の人類学―協力の人類史に向けて	信田 敏宏
		インドにおける新たなメディア状況と芸能の現在	松川 恭子
		ザンビア共和国で実施した「踊る大保健教育」プログラム	藤田 美樹 道信 良子
		景観人類学：認知とマテリアリティのはざま	河合 洋尚
		英語圏フェミニスト人類学のまなざしの中の「日本人女性」―「エロス化された日本」の表象のゆくえ	加藤 恵津子
		中産階級出身の在日ブラジル人の生活世界	奈倉 京子
		人類の移動誌	印東 道子
		Anthropological Studies of Whaling （Senri Ethnological Studies no. 84）	岸上 伸啓
2014年3月	144	民博の舞台裏で ―展示にまつわる人びととその業務上の裁量	太田 心平
		生命をつなぐ融合	鈴木 七美
		世俗のただ中の宗教性に向き合う	長谷 千代子
		海域ネットワーク社会の諸相とエスノネットワーク論	小野 林太郎
		外から見なおした「我々」―海外在住ネパール人と「包摂」	名和 克郎
		開発実践における人々の感情・フィールドワーカーの感情・国家と住民感情	関根 久雄
		処世法としての「非境界」	堀内 正樹
		驚異の体系化	山中 由里子
		百年後への声のメッセージ	劉 麟玉
		次世代人類学を構想する	杉島 敬志
		ローマ字カード集の底本をつくる	小長谷 有紀
		ポピュラーカルチャーから「女らしさ」、「男らしさ」を考える	福岡 まどか

民博通信一覧

発行年月	号数	タイトル	執筆者
2014年6月	145	モノの人類学から芸能を考える ―バリ島仮面舞踊劇トペンを手がかりとして	吉田 ゆか子
		「文化遺産の人類学」とはなにか	飯田 卓
		先住民／少数者の工芸、衣装による表象 ―アイデンティティの政治学とモノ研究	窪田 幸子
		聖概念のイデオロギー性、歴史性	杉本 良男
		スペイン帝国を支えた文書ネットワーク	吉江 貴文
		「統制」の身体化・新たな公共性	土佐 桂子
		「さわる展示」の深化と応用（2） ―観光のユニバーサルデザインを考える	広瀬 浩二郎
		日本国内の米国先住民研究の展開のために ―民族誌資料で関係者を束ねる	伊藤 敦規
		日本民族学会附属民族学博物館の収集資料	齋藤 玲子
		なぜいま再分配の人類学なのか	浜田 明範
		宗教・開発・国家をめぐる新動向へのアプローチ	石森 大知
		キリスト教文明とナショナリズム―人類学的比較研究 （国立民族学博物館論集2）	杉本 良男
		The Anthropology of Care and Education for Life:Searching for Resilient Communities in Multicultural Aging Societies（Senri Ethnological Studies no.87）	鈴木 七美
2014年9月	146	フォーラム型情報ミュージアムの構築―国立民族学博物館における新たな展開	岸上 伸啓
		日中の人類学の交流と今後の展開	韓 敏
		手話で膨らむことばへのアプローチ	菊澤 律子
		映像民族誌の新たな時代	川瀬 慈
		キリスト教徒アラブ・ナショナリストの先進性と限界 ―第4 回パレスチナ・アラブ会議を例に	菅瀬 晶子
		ローカリティの創出とヘテロトピアデザイン	西垣 有
		越境時代の身分証明	陳 天璽
		世界は物質の流れのなかにある	古谷 嘉章
		グローバルな消費のモードと連接するローカルな生産・流通のモード	小川 さやか
		景観人類学：さらなる可能性の模索	河合 洋尚
		「誰にとっての英雄か」から始まる探求	津田 浩司
		知覚を刺激するミュージアム ―見て、触って、感じる博物館のつくりかた	平井 康之
		リスクの人類学―不確実な世界を生きる	東 賢太朗

民博通信一覧

発行年月	号数	タイトル	執筆者
2014年12月	147	民博の国際協力―博物館学国際研修の20年	園田 直子
		民族学資料の情報化とデジタル化	佐々木 史郎
		新たな「手芸」の構築をめざして	上羽 陽子
		人類にとって定住化とは何か ―2014 年国際人類学民族科学連合中間会議の成果から	池谷 和信
		ユーラシアの事例からモースの『贈与論』を再考する	岸上 伸啓
		肉食行為の比較とグローバル社会での位置づけ	野林 厚志
		支援でも、援助でもなく：「まなびあい」という関わり	増田 和也
		グローバリゼーションにおける文化的フローを統制する力	松川 恭子
		ネパールにおける子ども政策と母親の就労	幅崎 麻紀子
		映像人類学（シネ・アンスロポロジー）―人類学の新たな実践へ	村尾 静二
		中国社会的家族・民族・国家的 话语及其动态 ―东亚人类学者的理论探索（Senri Ethnological Studies no.90）	韓 敏
2015年3月	148	世界の食文化研究と博物館	朝倉 敏夫
		モノからみる近代の子供	是澤 博昭
		資源化される「歴史」と中華ナショナリズムの諸相	長谷川 清
		ケアの実践から家族と社会の編成を考える	森 明子
		トールキンとジェルの指輪物語	杉島 敬志
		ネパール、「包摂」、人類学―共同研究を終える前に	名和 克郎
		海域ネットワークの形成と変遷の諸要因	小野 林太郎
		「声の近代化」から見えてきたもの ―3 年半の共同研究を振り返る	劉 麟玉
		芸術表現における民族的アイデンティティを考える	福岡 まどか
2015年6月	149	新たなサブスタンスとつながりの再配置 ―インドの生殖医療のフィールドから	松尾 瑞穂
		和食は誰のものか？―公開フォーラムが投げかけた問い	飯田 卓
		徳之島の民俗芸能に関するフォーラム型情報ミュージアムの構築	福岡 正太
		見返され、名指される経験から生まれる反省	太田 好信
		現代の実践＝知環境における呪術	川田 牧人
		「文化」以前の「文化相対主義」？	齋藤 晃
		生活必需品から文化と近代化を考える	鏡味 治也
		宗教研究の盲点を見極める	長谷 千代子
		開発の現場に立ち現われる宗教と世俗の境界	岡部 真由美

民博通信一覧

発行年月	号数	タイトル	執筆者
2015年9月	150	帰納的アプローチと演繹的アプローチの統合 ―アンデス考古学からの視点	関 雄二
		民族学博物館資料とソースコミュニティとの再会	伊藤 敦規
		宣教師による南太平洋コレクションの情報を集める	林 勲男
		表象の広がりを問い直す多彩な論点―ワークショップに向けて	窪田 幸子
		「統制」と公共性の人類学―まとめにむけて	土佐 桂子
		坪井正五郎によるアイヌ民族資料の収集	齋藤 玲子
		再分配論の再始動―理論、制度、行為	浜田 明範
		芸能研究とマテリアリティの人類学の交差点の探求	吉田 ゆか子
		聖・聖性、場所・空間	杉本 良男
2015年12月	151	世界の屋根の言語事情・研究事情 ―系統を越えた言語接触の現場	吉岡 乾
		手話の変化をたどる―比較方法の手話語彙への応用にむけて	菊澤 律子
		「情報遺産」を博物館が構築する意義―「核としての周縁」からの発信	野林 厚志
		応援の人類学の挑戦	丹羽 典生
		中世と近代の狭間―スペイン帝国における文書主義の実相	吉江 貴文
		映像人類学の国際的な研究動向とのつながりのなかで	川瀬 慈
		チベットの護符に息づくもの	長野 泰彦
		現代ネパールの政治と社会―民主化とマオイストの影響の拡大	南 真木人
		現代アジアの宗教―社会主義を経た地域を読む	藤本 透子
		パースペクティヴを展示する―ベルリン、ヨーロッパ諸文化博物館の試み	森 明子
		ヨーロッパにおけるグローバルヘルスの人類学―MAGic2015に参加して	浜田 明範
2016年3月	152	ミュージアムの中の古代アメリカ文明	鈴木 紀
		考古学の現在を掘る	ジョン・アートル
		医療者との協働による医療人類学教育の検討	飯田 淳子
		宇宙開発を対象にした文化人類学的研究の可能性	岡田 浩樹
		個への視座、個からの視座	齋藤 剛
		インドネシアの現代舞踊：新たなジャンルの模索	福岡 まどか
		既知の世界の彼方へ	山中 由里子
		手芸とはなにか―余暇的・趣味的仕事の分析から	上羽 陽子
		放射線影響を可視化する―共同研究始動にあたり	中原 聖乃
		ミュージアムと負の記憶―戦争・公害・疾病・災害：人類の負の記憶をどう展示するか	竹沢 尚一郎
		仕事の人類学―労働中心主義の向こうへ	宇田川 妙子
		映像音響メディアと民族音楽学	寺田 吉孝
		非営利研究の急展開	出口 正之

民博通信一覧

発行年月	号数	タイトル	執筆者
2016年6月	153	無形文化遺産の継承における「オーセンティックな変更・変容」	飯田 卓
		不確実性の人類学に向けて	碇 陽子
		サブスタンスから個と集団の関係性と範疇化を考える	松尾 瑞穂
		宣教師の異文化適応を再考する	齋藤 晃
		中国諸民族の「歴史」と資源化のダイナミクス	長谷川 清
		世俗領域における宗教人類学	長谷 千代子
		玩具にみる日本の近代―関東大震災から満州国承認まで	是澤 博昭
		ミュージアムが内包する高等教育の可能性	呉屋 淳子
		ヨーロッパにおける東南アジア地域研究の現在―EURO SEAS 2015に参加報告して	永田 貴聖
		スペインにおける人類学研究の展開―地方主義を超えて	八木 百合子
2016年9月	154	新たな民博の研究に向けて	西尾 哲夫・池谷 和信・野林 厚志
		ポストコロニアルになるとは？	太田 好信
		重なりあう呪術と科学	白川 千尋
		ケアの制度化をめぐって	加藤 敦典
		生活＜不＞必需品の効用	鏡味 治也
		西欧キリスト教的聖概念の再検討	杉本 良男
		素材、道具、音―社会的過程の中で変形するモノとして「楽器」を捉える	佐本 英規
		アジア太平洋諸国の災害復興―人道支援・集落移転・防災と文化	林 勲男
		＜紛争＞の比較民族誌―グローバル化におけるオセアニアの暴力・民族対立・政治的混乱	丹羽 典生
		分配（シェアリング）に関する海外研究動向	岸上 伸啓
		占領に負けない研究	菅瀬 晶子
2016年12月	155	手話言語学が拓くコトバの研究の未来	菊澤 律子
		アイヌ民族資料の活用のために	齋藤 玲子
		日本の文化展示場における資料情報の活用に向けて	日髙 真吾
		悪魔を懲らしめるチベットの護符	脇嶋 孝彦
		「表象」という視点の持つ力	窪田 幸子
		ビールを飲むジャガーの人類学的生息地	杉島 敬志
		スペイン帝国の文書流通プロセスを支えた力	吉江 貴文
		ソースコミュニティと共に考える資料収蔵と取扱いのあり方	水谷 裕佳
		障害研究の世界的展開	戸田 美佳子
		芸能のグローバルな伝播・発展に関する研究動向	竹村 嘉晃

民博通信一覧

発行年月	号数	タイトル	執筆者
2017年3月	156	北東アジア地域研究の新しい地平―人やものの移動からみた自然・文化・文明	池谷 和信
		民博収蔵の北米北方先住民族資料の高度情報化と情報発信	岸上 伸啓
		多言語データベースの構築―台湾の博物館資料情報の国際的な共有基盤	野林 厚志・丸川 雄三
		医療者にとっての医療人類学を教える／発見する	梅田 夕奈
		海外における宇宙人類学の動向	木村 大治
		大学応援団におけるバンカラ文化と女子学生の参入	吉田 佳世
		「心の進化」から驚異・怪異を捉える	山中 由里子
		現代東南アジアにおける人々のアイデンティティを考える	福岡 まどか
		台湾原住民による映画を通した自文化の発信・表現	川瀬 慈
		生業を問いなおす―日本民俗学の現在から	卯田 宗平
2017年6月	157	社会的なものをいかに描くか―ケアが発動する場所への関心	森 明子
		民博の原点を伝える保谷民博コレクション	飯田 卓
		トランスフォーマティブ研究としての共同研究	出口 正之
		ミュージッキング研究の挑戦―「音楽」のリアルな姿に迫るために	野澤 豊一
		「ユニバーサル・ツーリズム」とは何か	広瀬 浩二郎
		移動戦略を沙漠の物質文化から探る	縄田 浩志
		消費の視点から狩猟をとらえなおす	大石 高典
		手芸文化の現在をみつめるために	山崎 明子
		ウズベキスタンにおける「独立以降」の考古学的調査―ウズベキスタン考古研究所主催のシンポジウムより	寺村 裕史
		太平洋地域の人類学的研究の最前線	深川 宏樹
2017年9月	158	文明の転換点における人類学と博物館―民博の開館40 周年にあたって考える	吉田 憲司
		楽器の分類とデータベースの作成	福岡 正太
		「ご飯が食べられなくなったらどうしますか」―永源寺地区の「地域まるごとケア」の実践から考える	浮ヶ谷 幸代
		手段としての動物と人とのかかわり―共通した動物利用の論理を探る	卯田 宗平
		情報通信技術（ICT）と人間の共生社会に向けての理解	平田 晶子
		高等教育における「ミュージアム体験」の可能性	呉屋 淳子
		先住民から学び、変容する学問をめざして	太田 好信
		宣教と適応―グローバル・ミッションの近世	齋藤 晃
		複数の「歴史」とポリティクス―中国的文脈と特色の解明にむけて	長谷川 清
		玩具にみる日本の近代史―アメリカへの複雑なおもい	是澤 博昭
		日越交流史研究の新局面―ベトナム語ローマ字表記をめぐって	樫永 真佐夫
		研究資料アーカイブズにおける資料情報の記述と公開―講演会「アーカイブズ・オブ・アメリカンアート（AAA）のすべて」より	丸川 雄三

民博通信一覧

発行年月	号数	タイトル	執筆者
2017年12月	159	アフリカにおける障害者の生活世界―その地域性と歴史性	戸田 美佳子
		先住民による捕鯨と「動物の権利」	岸上 伸啓
		10 万年にわたる地球のビーズ文化―民博・特別展『ビーズ―つなぐ・かざる・みせる』からの展望	池谷 和信
		考古学における「ふくげん」のエスノグラフィー	吉田 泰幸
		不確実性をめぐる議論の拡がり	市野 澤潤平
		融通無碍な生身の個の理解に向けて	齋藤 剛
		現代における感覚とマテリアリティの呪術論に向けて	川田 牧人
		低線量被ばくの実相―しきい値の政治性を考える	西 佳代
		「物質性」の人類学―世界は物質の流れの中にある	古谷 嘉章
		グローバル支援の人類学―変貌するNGO・市民活動の現場から	信田 敏宏
2018年3月	160	日本における地域文化研究への新たなアプローチ	日髙 真吾
		収集後の資料にいかに情報を付加するか	齋藤 玲子
		展示場とウェブ空間とのはざまで考える	横山 廣子
		映像を用いた博物館資料情報の再収集	伊藤 敦規
		モノから信仰をとらえる	八木 百合子
		医療者教育の文脈で人類学という学知の何が必要とされるのか	伊藤 泰信
		日本の宇宙機器製造における「ものづくり」	岩谷 洋史
		応援を考える―人間と感情の動員という視点から	丹羽 典生
		＜自然＞の内と外	山中 由里子
		国立民族学博物館所蔵「仏教版画コレクション」における大型木版仏画	大羽 恵美
		不確実な現実と日常の間で―第116回アメリカ人類学会年次大会にみる中東・イスラーム人類学の研究動向	相島 葉月
		フードスケープをめぐる研究動向	河合 洋尚
2018年6月	161	東日本大震災以降の災害研究―人類学と他分野との協働に向けて	林 勲男
		データベース構築にむけた資料情報の整理	飯田 卓
		知的興奮を惹起するトランスフォーマティブ研究	出口 正之・早川 真悠・大貫一
		身近なネオリベラリズムについて考える	田沼 幸子
		文化人類学を自然化する方法にむけて	中川 敏
		フィールドでパフォーマーになるという経験から―ミュージッキングにおける「参与」	野澤 豊一
		視覚障害者の絵画鑑賞―「副触図」の可能性	広瀬 浩二郎
		コーヒー文化から、移動戦略を浮き彫りにする	縄田 浩志
		東南アジアのポピュラーカルチャー―アイデンティティ・国家・グローバル化	福岡 まどか
		海民の移動誌―西太平洋のネットワーク社会	小野 林太郎

民博通信一覧

発行年月	号数	タイトル	執筆者
2018年9月	162	水俣病を伝えるという運動―ブルデュー実践理論によるアプローチ	平井 京之介
		プラットホームとしてデーターベースの活用―台湾でのワークショップの経験から	野林 厚志
		地球の生き物と人と人との共生を求めて―民博・特別研究のシンポジウムから	池谷 和信
		人類学史の新たな展望	中生 勝美
		サブスタンスの人類学に向けて―サブスタンス論とサブスタンス研究の整理	松尾 瑞穂
		21世紀の博物館における保存科学	園田 直子
		獣肉食は日常化するか―都市での獣肉消費と肉食の倫理	大石 高典
		身体技法論においてテクノロジーとはいかなる問題でありうるか	吉川 侑輝
		Association for Asian Studies とその年次大会	太田 心平
		イタリアにおける食研究からみえるもの	宇田川 妙子
		はじめて学ぶ文化人類学	岸上 伸啓
2018年12月	163	イスラーム語源は「平和」か―中東地域における文化資源の現代的変容と個人空間の再世界化の研究にむけて	西尾 哲夫
		データベースの自由検索が不自由なとき―標本資料の検索を変える－試み	太田 心平
		原題日本の看取りに「文化」という語の使用は可能か	渥美 一弥
		ドメスティケーションが生起する条件―しない/できない事例から考える	卯田 宗平
		紛争下の文化遺産―復元を考える	山藤 正敏
		リスクと不確実性の対立を超えて	阿由葉 大生
		移ろいの中で育まれる人と知	齋藤 剛
		共感の当事者性・生成する主体の当事者性・方法としての当事者性	関 礼子
		現場と研究者をつなぐ―韓国農楽の2010年代の研究動向	神野 知恵
		ただいまオンエアー―みんぱく映像民族誌	三島 禎子
2019年3月	164	人をつなぐ技法としてのパフォーミング・アーツ ―共生のためにできること	寺田 吉孝
		現代世界におけるフロンティア空間の動態	佐川 徹
		世界の捕鯨と捕鯨問題を考える	岸上 伸啓
		医療者と人類学者による教科書の共同作成	飯田 淳子
		応援におけるノリと近代―沖縄の高校野球を中心に	丹羽 典生
		「超自然」の再考	山中 由里子
		「境界」に置かれるチベットの護符	村上 大輔
		物質と聖性―人文学諸分野からのアプローチ	古沢 ゆりあ
		ヨーロッパ南アジア学会から研究の現在を考える	菅野 美佐子
		インフラストラクチャーをめぐる人類学的研究の動向	古川 不可知
		『民博通信』のオンライン化にむけて	吉田 憲司

民博通信一覧

発行年月	号数	タイトル	執筆者
2020年3月	Online No.1	真実と虚偽の狭間に措定された「史実性」の追究	風間 計博
		なぜ公共空間の生態学なのか―「潜在的なもの」に目を凝らし、耳を澄ますために	内藤 直樹
		伝統染織とは何か―伝統と革新、そして継承	中谷 文美
		ケアの生態学に向けて	西 真如
		ナラティヴ・ポリティクスとしての現代異人論の探求	山泰 幸
		映像表現をめぐる考察―現場の視点から	藤田 瑞穂
		観光を再考する、観光の人類学を再構想する	東 賢太朗
		サピエンスによる葬送行為を島という視点から探る	小野 林太郎
		なぜいま中国の人類学的研究を再考するのか	河合 洋尚
		異分野融合による人類史規模での移動概念を求めて	鈴木 英明
		共同研究「主食論」をはじめるにあたって	野林 厚志
		再生事業の現場から問い直す泉靖一のイオル	大西 秀之
		感性と制度の多様な結びつきを探究する	緒方 しらべ
		移動の物質的側面を追って	古川 不可知
		民族植物学コレクションを活用した共同研究の動向―キュー植物園エコノミック・ボタニー・コレクション	大澤 由実
		イギリスにおける民族音楽学の研究動向―学際的共同研究の取り組みを中心に	神野 知恵
		オランダにおける資料管理等に関する研究動向調査報告	末森 薫
		英国のセミナー文化に見る人類学的な知のありかた	古川 不可知
2020年9月	Online No.2	データベース公開がはじまりの一歩	齋藤 玲子
		データベース「朝枝利男コレクション」の特徴と残された課題	丹羽 典生
		1980年代のサーランギ音楽の共有化	南 真木人
		時空間をこえたつながりを目指して	八木 百合子
		食が生まれる瞬間と脈絡を考える	野林 厚志
		「死」と「死にゆくこと」の人類学―「看取り文化」の新たな地平に向けて	浮ヶ谷 幸代
		世界の捕鯨を考える	岸上 伸啓
		拡張するミュージッキング研究	野澤 豊一
		沙漠社会に見る適応と移動―アラビア半島の衣装と住居から考える	縄田 浩志
		情報通信技術との共生の時代における身体技法論の更新	平田 晶子

民博通信一覧

発行年月	号数	タイトル	執筆者
2021年3月	Online No.3	五木村での「佐々木高明の見た焼畑」展―フォーラム型展示の可能性を探る	池谷 和信
		フォーラム型情報ミュージアムとしての「津波の記憶を刻む文化遺産―寺社石碑データベース」	日髙 真吾
		ソニンケによる「文化週間」の映像データベースの構築	三島 禎子
		権力と結びつく野生性―鵜飼文化から考える	卯田 宗平
		戦争と食の多様な関係	宇田川 妙子
		「人類学back home」に向けて	片岡 樹
		北太平洋先住民社会に関する比較研究構想	岸上 伸啓
		月経衛生対処という開発介入とローカルな月経観、女性の身体	新本 万里子
		人とモノを媒介する場所という視座	森 明子
		動物描写から「人と動物」を再考する	山口 未花子
		デジタル時代の先住民研究を目指して	近藤 祉秋
2021年9月	Online No.4	ついに来た「民博の時代」！？―これまでの6年、これからの6年	
		ミクロネシア標本資料の歴史的文脈化と文化遺産としての継承	林 勲男
		時代玩具コレクションデータベースの概要について	日髙 真吾
		わたしたちは文化人類学を自然化できたのか	中川 敏
2022年3月	Online No.5	アジアのリプロダクションとテクノロジーの多様な関係を探る	白井 千晶
		人間の傷つきやすさ	竹沢 尚一郎
		「不確実性」を観光の脈略で問い直す意義	土井 清美
		日本民俗音楽の伝承と研究を媒介するサウンド・アーカイブの構築に向けて	植村 幸生
		太平洋地域の古写真資料群に関する分析から日本人の太平洋コレクション形成を探る	丹羽 典生
		「デジタル×アナログ」「触覚×視覚」から迫る図像の魅力	宮坂 慎司
2022年9月	Online No.6	東南アジア・オセアニア―海辺のくらしと物質文化データベースの紹介とその制作過程	小野 林太郎
		標本資料と現地社会とをつなぐマルチメディア・コンテンツ	寺村 裕史
		焼畑展示の誕生とその影響	池谷 和信
		津波の記憶を刻む文化遺産―寺社石碑データベースの今後の展望	日髙 真吾
		ソースコミュニティが作る次世代のためのデータベース	三島 禎子
		国立アイヌ民族博物館でのビーズ展（2021年10月 2 日－12月 5 日）	池谷 和信
		地球規模の変動下における中東の人間と文化―多元的価値共創社会をめざして	西尾 哲夫
		南アジアの構造変動をネットワーク型共同研究で追究する	三尾 稔
		新型コロナウイルス感染症流行中のオンラインイベント	飯田 卓
		ケアの実践とその価値	西 真如
		学術研究としての表現実践に向けて	藤田 瑞穂

民博通信一覧

発行年月	号数	タイトル	執筆者
2023年3月	Online No.7	地域研究の刷新と環インド洋世界研究	三尾 稔
		共感共創学としての風土学の再構築―環境と心性を架橋する人と自然の科学知に向けたグロ ーバル人文学の創成へ	西尾 哲夫
		海域世界の地域研究が目指す新たな地平線	小野 林太郎
		東ユーラシアという「辺境」の宗教とサブカルチャーから幸せと軋轢を考える	島村 一平
		特別研究「ポストナショナリズム時代の博物館の挑戦」の射程	鈴木 紀
		アジアの狩猟採集民への新たなまなざし一移動と生業の人類史	池谷 和信
		「接合」から資本主義を考える	中川 理
		先住民であることとミックスであること―オセアニアの先住民を中心に	山内 由理子
		木材製品の環境的・文化的価値	落合 雪野
2023年9月	Online No.8	肌感覚としての地球社会を認識するために	西尾 哲夫・黒田 賢治
		観光現象への新たな視座	奈良 雅史
		島世界の葬墓制とホモ・サピエンス	小野 林太郎
		中国民族誌学と文明の人類学	河合 洋尚
		不自由な移動のなかで移動を再考して見えてきたこと	鈴木 英明
		主食の時空間―人類の食事を特徴づける食ペ物	野林 厚志
		不確実性の時代における歴史記憶と「史実性」	風間 計博
		フロンティア空間における想像力と実行力	佐川 徹
		寄生と依存の人類学―埒外の政治―経済的実践に注目して	内藤 直樹
		布の人類学に向けて	中谷 文美
		まちづくりの現場から考える“語り合う場のデザイン”	山泰 幸
		ネオリベを民族誌的に共同研究してみた	田沼 幸子
		人類学と政治の社会史	中生 勝美
		現地の知としての民族誌情報の返還	大西 秀之
		変容する世界と保存科学	園田 直子
		「感性」と「制度」のただなか、あるいは狭間をフィ ールドに	緒方 しらべ
		物質の世界をかき分けて	古川 不可知

民博通信一覧

発行年月	号数	タイトル	執筆者
2024年3月	Online No.9	モノと人をつなぐ―新たな知の創造に向けて	平野 智佳子
		日本人は太平洋で何を集めたか―コレクション形成史を考える窓口の構築	丹羽 典生
		戦前の朝鮮・台湾向けに制作されたレコードのデータベース構築	福岡 正太
		アンデスの民俗芸能の現在	八木 百合子
		「写真」を活用したエスノグラフィーの実践―フォト・エスノグラフィーの基本モデルの精緻化	岩谷 洋史
		パブリックな物質文化研究にむけて	飯田 卓
		「アフリカ史」から歴史的な知のあり方を問う	中尾 世治
		野生のウ類と日本人をめぐる1500年	卯田 宗平
		デジタル化から先住民研究の未来を展望する	近藤 祉秋
		ノルウェーにおける博物館のデジタル施策に関する調査報告	宮前 知佐子
		創造的な地方を創る対話の場―Islander Summit Ishigakiと津和野会議の取組	松本 文子